

科目名	基礎科学		学年	1 年 期生	
担当者			期 別	通年	
単位数	4		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	64時間・32回		専任・兼任	専任	
実務経験	大学19年、専門学校5年				
一般目標(GIO)					
医療者にとって必要な物理・化学・生物の基礎知識を理解する。 また、ヒトはどのような構造・機能をもって生命現象を維持しているのかを、人体の仕組みを全体的に学びながら理解する。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1				数学・物理・化学・生物の基礎	基礎的な計算を理解する。
2					文章を読んでその内容を理解する。
3					重量パーセント濃度、拡散と浸透について理解する
4					割合、百分率、歩合の関係について理解する。
5					モノの単位について理解する
6					遺伝の法則について説明できる
7					血液型(ABO型)について説明ができる
8				生命としての人体	生命活動の基本についておおまかに説明できる
9				からだを作っているもの	細胞、組織についておおまかに説明できる
10					体の構造についておおまかに説明できる
11				からだを巡る流れ	血液、血液の流れ、リンパについておおまかな説明ができる
12					心臓についておおまかに説明できる
13				食べ物の流れ	細胞が食物を取り込む仕組みをおおまかに説明できる
14					食べ物の通る道、消化のシステムについておおまかに説明できる
15				前期のまとめ	
16				前期試験の返却及び解答	
17				呼吸のしくみ	空気がたどる道についておおまかに説明できる
18					呼吸のしくみについておおまかに説明できる
19				からだにとって余分なもの	尿、血液の浄化についておおまかに説明できる
20					その他の余分なものの処理についておおまかに説明できる
21				中枢神経と末梢神経	神経系の役割についておおまかに説明ができる
22				からだを守るしくみ	自律神経についておおまかな説明ができる
23					からだを守る免疫についておおまかに説明できる
24				骨と筋肉	骨の生理的作用や筋肉の種類についておおまかに説明できる
25				脳・神経系	人の脳・神経系についておおまかに説明できる
26				低容量ピル	低用量ピルについての知識を持ち、女性の身体について考える
27				むくみ(浮腫)	むくみについての知識を持つ
28				貧血	貧血についての知識を持つ
29				頭痛	頭痛についての知識を持つ
30				睡眠	睡眠についての知識を持ち、自分の生活を考える
31				後期のまとめ	
32				後期試験の返却及び解答	
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	なし			人体の仕組みを全体的につかんで解剖生理を理解しよう(医学芸術者) イラストで学ぶ解剖学(医学書院) 看護学生プレトレーニング(メヂカルフレンド社) セラピストなら知っておきたい解剖生理学(秀和システム) セラピストなら知っておきたい病態生理学(秀和システム)

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	基礎福祉学		学年	1 年 期生	
担当者			期別	前期	
単位数	2 単位		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	32 時間	16 回	専任・兼任	兼任	
実務経験	【教育実績】1991～2000、08～09、09～22 小・中学校 専門学校 【臨床実績】2009～2023 専門学校附属治療院				
一般目標 (GIO)					
高齢化社会に突入し、めまぐるしく変革、改正される社会保障制度を学習する。					
社会保障制度の現状と課題を確認し、社会保障制度が自分たちの将来に密接に関係していることを理解する。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1				社会保障制度とは	これからの講義の流れを理解する。
2				社会保障制度の歴史	現在までに至る社会保障の歴史を知る。
3				医療保険について I	保険者と被保険者、保険給付について理解する。
4				医療保険について II	医療提供体制について理解する。
5				年金制度について I	保険者と被保険者、保険料について理解する。
6				年金制度について II	遺族年金と障害年金、企業年金等について理解する。
7				雇用保険について	保険者と被保険者、保険給付について理解する。
8				労災保険について	保険者と被保険者、保険給付について理解する。
9				社会保険と民間保険 I	社会保険と民間保険の共通性と相違について理解する。
10				社会保険と民間保険 II	民間保険の種類と働きについて理解する。
11				生活保護と社会福祉制度 I	生活保護の基本原則と給付について理解する。
12				生活保護と社会福祉制度 II	社会福祉制度のサービスと給付の仕組みを理解する。
13				介護保険について I	保険者と被保険者、保険給付について理解する。
14				介護保険について II	介護提供体制について理解する。
15				筆記試験	
16				全体のまとめと復習	
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	50%	「はじめての社会保障」 有斐閣アルマ			
出席日数	30%				
授業態度	20%				
	%				

1限目 (9:00～10:30)

2限目 (10:40～12:10)

3限目 (12:30～14:00)

科目名	外国語		学年	1年	期生
担当者			期別	通年	
単位数	4単位		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	64時間	32回	専任・兼任	専任	
実務経験	高校英語教諭10年				
一般目標(GIO)					
解剖学・生理学の専門書を利用しながら、平易な英語で書かれた医療テキストを読み、基本的な医学英語や医学の基礎を学ぶ。英語を通して医学を学ぶことにより、基本的な医学の知識を確実なものにする。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1				The Human Body	基本的な体の部位を英語で理解でき日本語で説明できる。
2				The Human Body	基本的な体の部位を英語で理解でき日本語で説明できる。
3				The Digestive Sysytem	各消化器の英語名を理解でき、その働きを簡単に説明できる。
4				The Digestive Sysytem	各消化器の英語名を理解でき、その働きを簡単に説明できる。
5				The Digestive Sysytem	各消化器の英語名を理解でき、その働きを簡単に説明できる。
6				The Digestive Sysytem	各消化器の英語名を理解でき、その働きを簡単に説明できる。
7				The Respiratory Sysytem	基本的な呼吸器の部位名を英語で理解でき、働きを説明できる。
8				The Respiratory Sysytem	基本的な呼吸器の部位名を英語で理解でき、働きを説明できる。
9				The Circulatory System	基本的な循環器の部位を英語で理解でき、働きを説明できる。
10				The Circulatory System	基本的な循環器の部位を英語で理解でき、働きを説明できる。
11				The Circulatory System	基本的な循環器の部位を英語で理解でき、働きを説明できる。
12				The Nervous System	基本的な神経系の部位を英語で理解でき、働きを説明できる。
13				The Nervous System	基本的な神経系の部位を英語で理解でき、働きを説明できる。
14				The Nervous System	基本的な神経系の部位を英語で理解でき、働きを説明できる。
15				The Nervous System	基本的な神経系の部位を英語で理解でき、働きを説明できる。
16				テスト返却・解説	前期に学習した基本的な内容を確認する。
17				The Sense Organs	各感覚器の基本的な部位を英語で理解でき、働きを説明できる。
18				The Sense Organs	各感覚器の基本的な部位を英語で理解でき、働きを説明できる。
19				The Sense Organs	各感覚器の基本的な部位を英語で理解でき、働きを説明できる。
20				The Urinary System	泌尿器系の基本的な部位を英語で理解でき、働きを説明できる。
21				The Urinary System	泌尿器系の基本的な部位を英語で理解でき、働きを説明できる。
22				The Urinary System	泌尿器系の基本的な部位を英語で理解でき、働きを説明できる。
23				Endocrine Organs	内分泌系の基本的な部位を英語で理解でき、働きを説明できる。
24				Endocrine Organs	内分泌系の基本的な部位を英語で理解でき、働きを説明できる。
25				Endocrine Organs	内分泌系の基本的な部位を英語で理解でき、働きを説明できる。
26				The Reproductive System	生殖器系の基本的な部位を英語で理解でき、働きを説明できる。
27				The Reproductive System	生殖器系の基本的な部位を英語で理解でき、働きを説明できる。
28				The Skeletal System	基本的な骨名を英語で理解できる。
29				The Skeletal System	基本的な骨名を英語で理解できる。
30				The Muscular System	基本的な筋肉名を英語で理解できる。
31				The Muscular System	基本的な筋肉名を英語で理解できる。
32				テスト返却・解説	後期に学習した内容について、質問に答えることができる。
評価基準			教科書		参考書
筆記テスト	100%			医療技術者のための医学英語入門(講談社) 解剖学(東洋療法学校協会編) 生理学(東洋療法学校協会編)	

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	解剖学 I		学年	1 年	期生
担当者			期別	前期	
単位数	2		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	64時間・32回		専任・兼任	専任	
実務経験	鍼灸治療院勤務 13年、理療科教諭および講師 9年、専門学校非常勤講師 2年				
一般目標 (GIO)					
解剖学における運動器系の分野を学習し、身体の構造と運動機能を理解する					
本科目では、全身の骨格および関節の構造と機能、体幹部・上肢の筋肉と体表解剖および運動機能の理解と知識の修得を目標とする					
回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1				運動器総論1	骨の基本構造と分類が説明できる
2				運動器総論2	筋の基本構造と分類が説明できる
3				脊柱の骨格1	椎骨の構造と構成を説明できる
4				脊柱の骨格2	各椎骨の違いが説明できる
5				胸郭の骨格	胸郭の構造と運動を説明できる
6				上肢の骨格1	上肢帯・自由上肢の構成と特徴が説明できる
7				上肢の骨格2	肩関節の構造が説明できる
8				上肢の骨格3	肘関節の構造が説明できる
9				上肢の骨格4	手指関節の構造が説明できる
10				下肢の骨格1	下肢帯・自由下肢の構成と特徴が説明できる
11				下肢の骨格2	股関節の構造が説明できる
12				下肢の骨格3	膝関節の構造が説明できる
13				下肢の骨格4	足部の関節の構造が説明できる
14				体幹の筋1	胸部の筋の構造と機能が説明できる
15				体幹の筋2	腹部および会陰部の筋の構造と機能が説明できる
16				体幹の筋3	背部の筋の構造と機能が説明できる
17				体幹の運動機能	体幹の関節と筋を理解し運動機能が説明できる
18				体幹の局所解剖1	体幹での体表から触知できる骨について説明ができる
19				体幹の局所解剖2	体幹での体表から触知できる筋について説明ができる
20				頸部の筋	頸部の筋の構造と機能が説明できる
21				頸部の局所解剖	頸部の構造的特徴を説明できる
22				上肢の筋1	上肢帯の筋の構造と機能が説明できる
23				上肢の筋2	上腕の筋の構造と機能が説明できる
24				上肢の筋3	前腕の筋の構造と機能が説明できる
25				上肢の筋4	手指の筋の構造と機能が説明できる
26				上肢の局所解剖1	上肢の体表から触知できる骨について説明ができる
27				上肢の局所解剖2	上肢の体表から触知できる筋について説明ができる
28				上肢の運動機能1	肩関節の関節と筋を理解し運動機能が説明できる
29				上肢の運動機能2	肘関節の関節と筋を理解し運動機能が説明できる
30				上肢の運動機能3	手関節の関節と筋を理解し運動機能が説明できる
31				テスト返却・解説	
32				まとめ	解剖学Ⅱに向けての知識の確認を行う
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	解剖学(医歯薬出版)		クリニカルマッサージ(西東社) 筋と骨格の触診術の基本(マイナビ) 骨・関節・靭帯・神経・血管の触診術の基本(マイナビ) はり・きゅう師国家試験過去問題集(医道の日本社)	

1限目 (9:00～10:30)

2限目 (10:40～12:10)

3限目 (12:30～14:00)

科目名	解剖学Ⅱ		学年	1 年 期生	
担当者			期別	後期	
単位数	1		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	32時間・16回		専任・兼任	専任	
実務経験	鍼灸治療院勤務 13年、理療科教諭および講師 9年、専門学校非常勤講師 2年				
一般目標(GIO)					
解剖学における運動器系の分野と脈管・神経の走行を学習し、身体の構造と運動機能を理解する 本科目では、解剖学の筋学の下肢の範囲および運動器の栄養血管・支配神経の走行と機能を学習し、その知識の修得を目標とする					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1				下肢の筋1	下肢帯の筋の構造と機能が説明できる
2				下肢の筋2	大腿の筋の構造と機能が説明できる
3				下肢の筋3	下腿の筋の構造と機能が説明できる
4				下肢の筋4	足部の筋の構造と機能が説明できる
5				下肢の運動機能1	股関節の関節と筋を理解し運動機能が説明できる
6				下肢の運動機能2	膝・足関節の関節と筋を理解し運動機能が説明できる
7				下肢の局所解剖	上肢の体表から触知できる骨・筋について説明ができる
8				上肢の脈管	上肢の動脈・静脈・リンパの走行を理解し、説明ができる
9				上肢の神経	上肢の神経の走行を理解し、説明ができる
10				下肢の脈管	下肢の動脈・静脈・リンパの走行を理解し、説明ができる
11				下肢の神経	下肢の神経の走行を理解し、説明ができる
12				体幹の脈管	体幹の動脈・静脈・リンパの走行を理解し、説明ができる
13				体幹の神経	体幹の神経の走行を理解し、説明ができる
14				顔面部の筋	表情筋の走行と作用を理解し、説明ができる
15				復習	
16				テスト返却・解説	
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	解剖学(医歯薬出版)		クリニカルマッサージ(西東社) 筋と骨格の触診術の基本(マイナビ) 骨・関節・靭帯・神経・血管の触診術の基本(マイナビ) はり・きゅう師国家試験過去問題集(医道の日本社)	

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	解剖学Ⅲ		学年	1年	期生
担当者			期別	後期	
単位数	2		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	64時間・32回		専任・兼任	専任 兼任	
実務経験	臨床1年				
一般目標(GIO)					
<p>人体の構成を理解することで、将来、はり師・きゅう師として施術の危険性を察知できる能力を身につけさせ、かつ、医学に対する興味を持たせ、より良い医療人を育成することを目標に位置づけている。</p>					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1				心臓① 概要、弁について	心臓の概要と心臓の弁が説明できる。
2				心臓② 刺激伝導系について	心臓の刺激伝導系が説明できる。
3				動脈系① 肺循環、体循環、上行大動脈、大動脈弓、頭頸部の動脈	上半身の動脈が説明できる。
4				動脈系② 上肢の動脈、胸大動脈	上半身の動脈が説明できる。
5				動脈系③ 腹大動脈、体幹の動脈、総腸骨動脈、下肢の動脈	下半身の動脈が説明できる。
6				静脈系① 頭頸部と上肢の静脈	頭頸部と上肢の静脈が説明できる。
7				静脈系② 門脈、骨盤の静脈	門脈と骨盤の静脈が説明できる。
8				胎児循環	胎児循環が説明できる。
9				リンパ系 概要、走行、リンパ本幹、リンパの器官（脾臓など）	リンパ系が説明できる。
10				消化器① 消化管の基本構造	消化管の基本構造が説明できる。
11				消化器② 口腔、咽頭、食道	口腔、咽頭、食道が説明できる。
12				消化器③ 胃、小腸	胃、小腸が説明できる。
13				消化器④ 大腸、肝臓	大腸、肝臓が説明できる。
14				消化器⑤ 胆嚢、膵臓	胆嚢、膵臓が説明できる。
15				消化器⑥ 腹膜	腹膜が説明できる。
16				人体の構成(細胞・細胞分裂)	細胞の構造と細胞分裂を説明できる。
17				人体の構成(組織)	上皮組織・結合組織を説明できる。
18				人体の構成(組織)	筋組織・神経組織を説明できる。
19				人体の構成(皮膚構造)	体表構造(皮膚:表皮・真皮・皮下組織)を説明できる。
20				呼吸器系(上気道)	鼻腔・副鼻腔の構造と機能を説明できる。
21				呼吸器系(上気道)	咽頭・喉頭(喉頭軟骨)をの構造と機能を説明できる。
22				呼吸器系(下気道)	気管・気管支の構造と機能を説明できる。
23				呼吸器系(肺・縦隔)	肺・縦隔の構造と機能を説明できる。
24				呼吸器系(肺・縦隔)	肺・縦隔の構造と機能を説明できる。
25				泌尿器系(腎臓)	腎臓の機能と構造、腎臓の血管の説明ができる。
26				泌尿器系(腎臓)	腎臓の機能と構造、腎臓の血管の説明ができる。
27				泌尿器系(尿路)	尿管・膀胱・尿道の機能と構造の説明ができる。
28				泌尿器系(尿路)	尿管・膀胱・尿道の機能と構造の説明ができる。
29				内分泌系(下垂体・松果体)	下垂体前葉・後葉・松果体のホルモンの作用が説明できる。
30				内分泌系(甲状腺・副甲状腺・上皮小体)	甲状腺・副甲状腺・上皮小体のホルモンの作用が説明できる。
31				内分泌系(副腎・膵臓)	副腎・膵臓のホルモンの作用が説明できる。
32				期末試験解説	
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	解剖学 第2版 東洋療法学校協会		生理学 第3版 東洋療法学校協会	

1限目(9:00～10:30)

2限目(10:40～12:10)

3限目(12:30～14:00)

科目名	生理学 I		学年	1 年 期生	
担当者			期別	前期	
単位数	1 単位		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	32 時間	16 回	専任・兼任	専任	
実務経験	病院1年、鍼灸接骨院3年、専門学校附属治療院11年、専門学校専任教員11年				
一般目標 (GIO)					
生理学における神経系の働きを、神経細胞から中枢神経系、末梢神経系、それぞれの機能やメカニズムについての基本的な知識の習得を目標とする					
回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1				ニューロンの構造と働き	神経細胞の構造と働きについて理解し、おおまかに説明できる
2				神経線維の興奮伝達	神経線維の種類やその興奮伝達について大まかに説明できる
3				シナプス伝達	シナプス伝達について構造も含め、大まかに説明できる
4				中枢神経系の分類と機能	神経系を系統だてて大まかに理解し、説明できる。
5				反射	反射の基本的な機序について大まかに説明できる
6				脊髄	脊髄の構造や主な働きについて大まかに説明できる
7				脳幹	脳幹の構造や主な働きについて大まかに説明できる
8				小脳	小脳の構造や働きについて大まかに説明できる
9				視床・視床下部	視床・視床下部の構造や働きについて大まかに説明できる
10				大脳(基底核、辺縁系)	大脳基底核・大脳辺縁系の構造やその働きについて大まかに説明できる
11				大脳新皮質	大脳新皮質の構造やその働きについて大まかに説明できる
12				高次脳機能、脳脊髄液	高次脳機能の働きや脳脊髄液についてその構造を含め、大まかに説明できる
13				末梢神経系	末梢神経系の構造や働きについて大まかに説明できる
14				自律神経系	自律神経系の主な働きについて大まかに説明できる
15				交感神経系・副交感神経系	交感神経系・副交感神経系それぞれの構造や機能について大まかに説明できる
16				自律神経系の中樞	自律神経系の中樞について大まかに説明できる
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%			医歯薬出版株式会社 生理学 公益社団法人 東洋療法学校協会編	医歯薬出版株式会社 解剖学 公益社団法人 東洋療法学校協会編

1限目 (9:00～10:30)

2限目 (10:40～12:10)

3限目 (12:30～14:00)

科目名	生理学Ⅱ		学年	1 年 期生	
担当者			期別	前期	
単位数	1 単位		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	32 時間	16 回	専任・兼任	兼任	
実務経験	専門学校講師18年 臨床16年				
一般目標(GIO)					
<p>人体の機能を西洋科学的に理解し、説明することが出来る。</p> <p>教科書の以下の範囲が対象となる。</p> <p>第3章 呼吸</p> <p>第5章 栄養と代謝</p> <p>第4章 消化と吸収</p>					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1				授業ガイダンス	生理学を学ぶ目的を理解する
2				呼吸の概略 呼吸器	呼吸と呼吸器について理解する
3				肺機能	肺機能について理解し説明できる
4				換気とガス交換	換気とガス交換について化学的に理解し説明できる
5				呼吸運動	呼吸運動について理解し説明できる
6				呼吸調節	呼吸調節について理解し説明できる
7				栄養と代謝	栄養と代謝について理解し説明できる
8				糖質	糖質について理解し説明できる
9				脂質	脂質について理解し説明できる
10				タンパク質 ビタミン 無機質	その他の栄養素について理解し説明できる
11				消化吸収の概略	消化吸収の概略について理解し説明できる
12				消化管運動	消化管運動について理解し説明できる
13				消化液	消化液について理解し説明できる
14				消化液 吸収	消化液と吸収について理解し説明できる
15				肝臓 摂食の調節	肝臓と摂食の調節について理解し説明できる
16				期末試験答案返却・解説	期末試験の結果について自己分析できる。
評価基準			教科書		参考書
期末試験	100%	東洋療法学校協会『生理学』 (医歯薬出版株式会社)			
	%				
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	生理学Ⅲ		学年	1 年 期生	
担当者			期別	後期	
単位数	1 単位		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	32 時間	16 回	専任・兼任	専任	
実務経験	専門学校付属鍼灸院 14年				
一般目標(GIO)					
生理学における筋・運動・感覚のそれぞれの機能、メカニズムについての基本的な知識の習得を目標とする					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1				骨格筋の構造と、神経支配	骨格筋の構造や神経支配について理解し、説明できる
2				神経筋接合部の興奮伝達	神経筋接合部の構造や興奮の伝達について理解し、説明できる
3				筋の収縮の仕組み	筋の収縮の仕組みについて理解し、説明できる
4				心筋と平滑筋	心筋と平滑筋の特徴や働きや骨格筋との違いについて理解し、説明できる
5				運動の調節	運動の調節に関わることについて理解し、説明できる
6				脊髄反射	脊髄反射について説明できる
7				脳幹による調節	脳幹による反射に何があるか理解し、説明できる
8				大脳皮質による調節	大脳皮質により何が調節されているか、理解し、説明できる
9				錐体路系と錐体外路系	錐体路系と錐体外路系の違いやその障害で起こることについて理解し、説明できる
10				感覚の分類と一般的性質	感覚の分類を理解し、その性質について説明できる
11				体性感覚	体性感覚について、何があるのか理解し、その性質について説明できる
12				痛覚	痛覚のメカニズムについて理解し、分類することが出来る
13				痛みの抑制系	痛みの抑制系の種類の違い、そのメカニズムについて理解し、説明できる
14				味覚・嗅覚	味覚・嗅覚について、受容器から伝導路まで理解し、説明できる
15				聴覚・平衡感覚	聴覚・平衡感覚について、受容器から伝導路まで理解し説明できる
16				視覚	視覚について、受容器から伝導路まで理解し説明できる
評価基準			教科書		参考書
レポート	20%	医歯薬出版株式会社 生理学		医歯薬出版株式会社 解剖学	
筆記試験	80%	公益社団法人 東洋療法学校協会編		公益社団法人 東洋療法学校協会編	
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	生理学IV		学年	1 年 期生	
担当者			期別	後期	
単位数	1 単位		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	32 時間	16 回	専任・兼任	兼任	
実務経験	専門学校講師18年 臨床16年				
一般目標(GIO)					
<p>人体の機能を西洋科学的に理解し、説明することが出来る。</p> <p>教科書の以下の範囲が対象となる。</p> <p>第8章 内分泌</p> <p>第7章 排泄</p> <p>第6章 体温</p>					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1				内分泌とホルモン	内分泌とホルモンについて理解し説明できる
2				視床下部・下垂体ホルモン	視床下部・下垂体ホルモンについて理解し説明できる
3				甲状腺・副甲状腺ホルモン	甲状腺・副甲状腺ホルモンについて理解し説明できる
4				膵臓・副腎ホルモン	膵臓・副腎ホルモンについて理解し説明できる
5				精巣・卵巣ホルモン	精巣・卵巣ホルモンについて理解し説明できる
6				その他のホルモン まとめ	内分泌についての理解度を自己評価する
7				排泄の概略 腎臓の働き	排泄の概略 腎臓の働きについて理解し説明できる
8				尿生成	尿生成について理解し説明できる
9				再吸収と分泌 尿生分	再吸収と分泌と尿生分について理解し説明できる
10				腎臓による体液調節	腎臓による体液調節について理解し説明できる
11				畜尿と排尿	畜尿と排尿について理解し説明できる
12				体温の概略	体温の概略について理解し説明できる
13				熱産生と放熱	熱産生と放熱について理解し説明できる
14				発汗 体温調節	発汗と体温調節について理解し説明できる
15				総合演習	科目全体の理解度を自己評価し問題があれば解決する
16				期末試験答案返却 解説	期末試験の結果について自己分析できる。
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	東洋療法学校協会『生理学』 (医歯薬出版株式会社)			
	%				
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	基礎解剖生理学 I		学年	1 年 期生	
担当者			期別	前期	
単位数	1 単位		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	32時間 16回		専任・兼任	専任	
実務経験	特別支援学校附属治療院8年 専門学校附属治療院19年				
一般目標 (GIO)					
<p>生理学において最も基礎的かつ重要な項目を正確に理解し、説明ができるようになる。生理学と解剖学のテキストを使用することによって理解度をより深める。</p> <p>この分野は今後学習する病理学、臨床医学へと繋がり、鍼灸師になるための礎となるところなので全員が確実に修得することを目指す。</p>					
回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1				生理機能の特徴	生命現象・ホメオスタシスについて説明ができる。
2				細胞の構造と機能	細胞膜・細胞質・細胞小器官の説明ができる。
3				細胞の構造と機能	核・DNA・RNAの説明ができる。
4				物質代謝	同化と異化・解糖と内呼吸の説明ができる。
5				体液の組成と働き	体液の区分・イオン組成・pHの説明ができる。
6				体液の組成と働き	体液の浸透圧、体液量と水分の出納バランス、脱水・浮腫について説明できる。
7				物質移動	拡散・浸透・能動輸送・サイトーシス・濾過について説明できる。
8				血液の組成と働き	血球成分について説明できる。
9				止血	一時止血、二時止血について説明できる。
10				線維素溶解	線維素溶解と凝固阻止物質について説明できる。
11				血液型	ABO式血液型等について説明できる。
12				心臓の構造と働き	大循環・小循環・動脈・静脈について説明できる。
13				心臓の構造と働き	心筋の特性・刺激伝導系・心機能の調節について説明できる。
14				血液循環	脈拍・毛細血管・静脈・血管の神経支配・血圧およびその調節について説明できる。
15				血液循環	循環の反射性調節・高位中枢からの影響・特殊な部位の循環について説明できる。
16				リンパ系	リンパ系の機能・リンパの生成と組成・リンパ管とリンパの輸送について説明できる。
評価基準			教科書		参考書
定期試験(筆記試験)のみ			生理学 第3版 (東洋療法学校協会編)		

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	基礎解剖生理学Ⅱ		学年	1 年 期生	
担当者			期別	後期	
単位数	1 単位		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	32時間 16回		専任・兼任	専任	
実務経験	病院1年、鍼灸接骨院3年、専門学校附属治療院11年、専門学校専任教員11年				
一般目標(GIO)					
<p>循環器系と頭蓋骨の基礎的な項目を確実に理解し、説明できるようなる。生理学と解剖学のテキストを並行して使用し学習することによって理解度を深める。この分野は今後学習する病理学、臨床医学の基礎となる所なので繰り返し学習し、より良い鍼灸師になるための資質を身に付ける。</p>					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1				頭蓋骨の成り立ち	脳頭蓋について図で示し、解説できる。
2				頭蓋骨の成り立ち	顔面頭蓋について図で示し、解説できる。
3				脳頭蓋をつくる骨	前頭骨・頭頂骨・後頭骨・側頭骨について図で示し、解説できる。
4				脳頭蓋をつくる骨	蝶形骨・篩骨について図で示し、解説できる。
5				顔面頭蓋をつくる骨	鼻骨・涙骨・頬骨、上顎骨、口蓋骨・下鼻甲介・鋤骨について図で示し、解説できる。
6				頭部の関節・顎関節	下顎骨・舌骨及び、関節の構造について説明できる。
7				末梢神経系	末梢神経系の構造や働きについて大まかに説明できる
8				自律神経系	自律神経系の主な働きについて大まかに説明できる
9				交感神経系・副交感神経系	交感神経系・副交感神経系それぞれの構造や機能について大まかに説明できる
10				脳幹・小脳・視床・視床下部	脳幹・小脳・視床・視床下部の構造や主な働きについて大まかに説明できる
11				大脳(基底核、辺縁系、新皮質)	大脳基底核・大脳辺縁系・大脳新皮質の構造やその働きについて大まかに説明できる
12				脳幹による調節	脳幹による反射に何があるか理解し、説明できる
13				大脳皮質による調節	大脳皮質により何が調節されているか、理解し、説明できる
14				錐体路系と錐体外路系	錐体路系と錐体外路系の違いやその障害で起こることについて理解し、説明できる
15				筆記試験	
16				テスト返却・解説	
評価基準			教科書		参考書
定期試験(筆記試験)のみ			生理学(第3版 東洋療法学校協会編) 解剖学(第2版 東洋療法学校協会編)		

科目名	医療概論			学年	1年	期生
担当者				期別	前期	
単位数	2			講義・実習	講義	
時間数・授業回数	32時間・16回			専任・兼任	専任	
実務経験	臨床1年					
一般目標(GIO)						
医療従事者となるために、西洋・東洋の医学の歴史や現状を知り、これからの医療に対する問題や倫理を学ぶ。 医療人としての倫理の基礎を作ることを目標とする。						
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)	
1				医療概論	病、医療とは何かについて考える	
2				医療倫理	医療人としての倫理について考え、理解する	
3				現代医学の課題	近代医学の方法、課題について考える	
4				現代医学の課題	東洋医学と西洋医学の違いを考える	
5				現代の医療制度	医療保険、公的医療、介護サービスについて理解する	
6				現代の医療制度	医療について学び、医療経済の問題を考える	
7				日本の医学と医療の歴史	古代以前の時代背景から医学について学ぶ	
8				日本の医学と医療の歴史	古代～中世の時代背景から医学を学ぶ	
9				日本の医学と医療の歴史	近代の医学について学ぶ	
10				日本の医学と医療の歴史	古代～中世の時代背景から医学を学ぶ	
11				日本の医学と医療の歴史	近代の医学について学ぶ	
12				東洋医学の起源	中国の医学を学ぶ	
13				東洋医学の歴史	現代の日本の東洋医学に至るまでを学ぶ	
14				日本の東洋医学の現状	日本の資格制度や東洋医学の多様性について学ぶ	
15				復習		
16				テスト返却・解説		
評価基準			教科書		参考書	
筆記試験	100%	医療概論(東洋療法学校協会)		まんが 医学の歴史(医学書院) 新版 東洋学概論(東洋療法学校協会)		

1限目(9:00～10:30)

2限目(10:40～12:10)

3限目(12:30～14:00)

科目名	はりきゅう理論 I		学年	1 年 期生	
担当者			期別	後期	
単位数	2		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	32時間・16回		専任・兼任	専任	
実務経験	専門学校付属鍼灸院 14年				
一般目標(GIO)					
はり・きゅうの歴史から、基本的な知識を修得させ、鍼灸施術を行う上で危険を認識できるようにする能力を身につける。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1				概論	鍼灸施術の意義についての説明ができる。
2				鍼の基礎知識(用具・古代九鍼)	毫鍼の名称、材質と特徴、鍼管の材質や特徴の説明ができる。
3				鍼の基礎知識(用具・古代九鍼)	古代九鍼の種類・使用の説明ができる。
4				刺鍼の方式と術式	管鍼法・打鍼法・撚鍼法の創案者と説明ができる。
5				刺鍼の方式と術式	揉撚法・押手・切皮・刺鍼の角度(斜刺・横刺)の説明ができる。
6				刺鍼の方式と術式	刺鍼中の手技(杉山流十七手技)の説明ができる。
7				特殊鍼法	小児鍼・円皮鍼・皮内鍼の説明ができる。
8				特殊鍼法	灸頭鍼・低周波鍼通電の説明ができる。
9				灸の基礎知識	ヨモギ・モグサの品質(良質艾・粗悪艾)の説明ができる。
10				灸の基礎知識	モグサの製法・線香の品質の説明ができる。
11				灸術の種類(有痕灸・無痕灸)	有痕灸(透熱灸・打膿灸・焦灼灸)の説明ができる。
12				灸術の種類(有痕灸・無痕灸)	無痕灸(知熱灸・隔物灸・温灸・薬物灸)の説明ができる。
13				鍼灸の臨床応用	鍼灸刺激の刺激量や感受性、鍼灸の適応症・禁忌を説明できる。
14				リスク管理	鍼灸療法の過誤と副作用(気胸・折鍼・渋鍼・熱傷・灸あたり)の説明ができる。
15				リスク管理	感染症(エイズ・肝炎)の危険性の説明ができる。
16				後期試験返却・解説	
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	はりきゅう理論 東洋療法学校協会			はりきゅう実技<基礎編> 東洋療法学校協会

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	経絡経穴概論 I		学年	1 年	期生
担当者			期別	通年	
単位数	3 単位		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	48 時間	24 回	専任・兼任	専任	
実務経験	病院勤務5年、専門学校附属治療院21年				
一般目標 (GIO)					
鍼灸師として必須の経絡経穴の知識を修得する。 ・正経十二経および督脈、任脈の十四経の経穴名、取穴部位を身につける。 ・十四経脈の五俞穴・五行穴・五要穴を身につける。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1				経絡・経穴の基礎	正経十二経脈の走行が説明できる
2				経絡・経穴の基礎	骨度法が説明できる
3				十四経脈とその経穴	督脈の経穴名と部位が説明できる
4				十四経脈とその経穴	任脈の経穴名と部位が説明できる
5				十四経脈とその経穴	手の太陰肺経の経穴名と部位が説明できる
6				十四経脈とその経穴	手の陽明大腸経の経穴名と部位が説明できる
7				十四経脈とその経穴	足の陽明胃経の経穴名と部位が説明できる
8				テストの返却と解説	
9				十四経脈とその経穴	足の陽明胃経の経穴名と部位が説明できる
10				十四経脈とその経穴	足の太陰脾経の経穴名と部位が説明できる
11				十四経脈とその経穴	手の少陰心経の経穴名と部位が説明できる
12				十四経脈とその経穴	手の太陽小腸経の経穴名と部位が説明できる
13				十四経脈とその経穴	足の太陽膀胱経の経穴名と部位が説明できる
14				十四経脈とその経穴	足の太陽膀胱経の経穴名と部位が説明できる
15				十四経脈とその経穴	足の少陰腎経の経穴名と部位が説明できる
16				十四経脈とその経穴	手の厥陰心包経の経穴名と部位が説明できる
17				中間テスト	脾・心・小腸・膀胱の経穴名と部位が説明できる
18				テストの返却と解説	
19				十四経脈とその経穴	手の少陽三焦経の経穴名と部位が説明できる
20				十四経脈とその経穴	足の少陽胆経の経穴名と部位が説明できる
21				十四経脈とその経穴	足の少陽胆経の経穴名と部位が説明できる
22				十四経脈とその経穴	足の厥陰肝経の経穴名と部位が説明できる
23				まとめ	十四経脈の経穴名と部位が説明できる
24				テストの返却と解説	
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					
評価基準			教科書		参考書
定期試験(前期・中間・後期)	100%	新版 経絡経穴概論(医道の日本社)			針灸経穴辞典(東洋学術出版社)
	%				
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	東洋医学概論 I		学年	1 年 期生	
担当者			期別	前期	
単位数	4		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	64時間・32回		専任・兼任	専任	
実務経験	臨床1年				
一般目標(GIO)					
東洋医学の特徴、歴史について学び、精・気・血・津液がどのように作用し、どのようにして成り立っているのかを学ぶ。					
人体に当てはめ、具体的にどのような現象・症状として現れるのかを理解し、説明できるようになることを目標とする。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1				東洋医学の沿革	東洋医学の起源、成立と発展について理解する
2				東洋医学の沿革	日本における東洋医学の歴史を学ぶ
3				人体の見方	人と自然の統一性について理解する
4				東洋医学的治療・治療法	医療人の心得、治療法について理解する
5				日本の東洋医学の現状	現在に至るまでの歴史を学ぶ
6				陰陽学説の基本	陰陽学説を理解する
7				人体における陰陽	人体における陰陽を理解する
8				人体における陰陽	人体における全てを陰陽に分けることができる
9				五行学説の基本内容	五行の分類、関係を覚える
10				五行の生理と病理	人体における五行の生理と病理を理解する
11				診察における五行の応用	人体における五行の生理と病理を理解する
12				五行学説の運用	自然界の五行を理解し覚える
13				五行学説の運用	人体の五行を理解し覚える
14				生植物質(精・気・血・津液)	精・気の生理、病理を理解する
15				生植物質(精・気・血・津液)	血・津液の生理、病理を理解する
16				生植物質(精・気・血・津液)	全ての生植物質の生理を説明できる
17				復習	
18				小テスト	
19				蔵象学説	五臓六腑、奇恒の腑を理解する
20				肝系統	肝胆の生理と病理を理解する
21				心系統	心小腸の生理と病理を理解する
22				脾系統	脾胃の生理と病理を理解する
23				肺系統	肺大腸の生理と病理を理解する
24				腎系統	腎膀胱の生理と病理を理解する
25				五臓の相互関係	各臓腑の相互関係を理解する
26				五臓の相互関係	各臓腑の相互関係を理解する
27				六腑の協調関係	各臓腑の相互関係を理解する
28				六腑の協調関係	各臓腑の相互関係を理解する
29				病因病機	病因を理解する
30				病因病機	病機を理解する
31				テスト返却・解説	
32				まとめ	
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	新版 東洋医学概論(東洋療法学校協会) 東洋医学概論(東洋療法学校協会)		基本としくみがよくわかる 東洋医学の教科書(ナツメ社) 中医学の仕組みがわかる基礎講義(医道の日本社)	

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	東洋医学概論Ⅱ		学年	1 年 期生	
担当者			期別	後期	
単位数	4		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	64時間・32回		専任・兼任	専任	
実務経験	臨床1年				
一般目標(GIO)					
陰陽五行を理解し、具体的に身体にどのような現象・症状として現れるのかを理解する。 具体的な症状に対して弁証論治をできるようになることを目標とする。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1				望診	神、色、形、態を理解し覚える
2				望診	神、色、形、態を理解し覚える
3				望診	舌診を理解し覚える
4				望診	舌診を理解し覚える
5				聞診	声診を理解し覚える
6				問診	主訴、基本的問診事項を理解し覚える
7				問診	主訴、基本的問診事項を理解し覚える
8				問診	その他の問診事項を理解し覚える
9				問診	その他の問診事項を理解し覚える
10				切診	反応、腹診を理解し覚える
11				切診	経穴診、脈診を理解し覚える
12				復習	
13				小テスト	
14				弁証	八綱弁証を理解し覚える
15				弁証	八綱弁証を活用できる
16				弁証	気血津液弁証を理解する
17				弁証	気血津液弁証を活用できる
18				弁証	臓腑弁証を理解する
19				弁証	臓腑弁証を活用する
20				弁証	経絡、六淫、六経弁証を理解する
21				弁証	衛気営血弁証、三焦弁証を理解する
22				小テスト	
23				論治	扶正去邪、陰陽の調整を理解する
24				論治	正治、反治を理解する
25				論治	治法八法、それぞれの治法を理解する
26				論治	その他の治法を理解する
27				論治	論治の復習を行い確実に修得する
28				治療法の概要	鍼灸治療の概要を理解する
29				弁証の進め方	弁証の手順を確認する
30				復習	
31				テスト返却・解説	
32				まとめ	
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	新版 東洋医学概論(東洋療法学校協会) 東洋医学概論(東洋療法学校協会)		基本としくみがよくわかる 東洋医学の教科書(ナツメ社) 中医学の仕組みがわかる基礎講義(医道の日本社)	

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	はりきゅう実技基礎	学年	1 年 期生
担当者		期別	前期
単位数	2	講義・実習	実習
時間数・授業回数	64時間・32回	専任・兼任	専任
実務経験	専門学校付属鍼灸院 14年		

一般目標(GIO)

はり師、きゅう師になるための基礎である、片手挿管や艾炷の作り方を反復して練習していく。

自分の身体に鍼や灸を行いながら、消毒についても学習する。

何度も反復して練習を行い、より良い鍼灸師の手を作ることを目標とする。

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1				オリエンテーション	実技室の使い方やルールを覚る 手洗い・手指消毒について学習する
2				鍼・もぐさの説明	手指消毒・両手挿管を行いながら鍼に触れる 様々な種類のもぐさに触れ、用途について学習する
3				鍼・灸の基本実技	片手挿管を行い、練習台上に鍼を打つまでの一連の流れを学習する 艾炷を作る手の動きを実践する
4				片手挿管・艾炷の作り方	片手挿管を行い練習台上に鍼を打つ練習を行う 米粒大の艾炷を作る
5				片手挿管・艾炷の作り方	片手挿管を行い練習台上に鍼を打つ練習を行う 半米粒大の艾炷を作る
6				刺鍼・艾炷へ点火	片手挿管を行い、練習台上に鍼を打つ(直刺1cm) 半米粒大の艾炷を作り、火をつける動作を確認する
7				刺鍼・艾炷へ点火	片手挿管から刺鍼までの流れをスムーズに行う 半米粒大の艾炷を作り、火をつける練習を行う
8				刺鍼・艾炷へ点火	片手挿管から刺鍼までの流れをスムーズに行う 半米粒大の艾炷を作り、火をつける練習を行う
9				刺入・艾炷へ点火	刺鍼練習台上に直刺で1cm刺す(旋捻術・送り込み法) 半米粒大の艾炷を作り、火をつける練習を行う
10				刺入・艾炷へ点火	刺鍼練習台上に直刺で1cm刺す(旋捻術・送り込み法) 半米粒大の艾炷を作り、火をつける練習を行う
11				刺入・艾炷へ点火	刺鍼練習台上に直刺で1cm刺す(旋捻術・送り込み法) 半米粒大の艾炷を作り、火をつける練習を行う
12				刺入・艾炷へ点火	刺鍼練習台上に直刺で1cm刺す(旋捻術・送り込み法) 半米粒大の艾炷を作り、火をつける練習を行う
13				刺入・艾炷へ点火	刺鍼練習台上に直刺で3cm刺す(旋捻術・送り込み法) 半米粒大の艾炷を作り、火をつける練習を行う
14				刺入・艾炷へ点火	刺鍼練習台上に直刺で3cm刺す(旋捻術・送り込み法) 半米粒大の艾炷を作り、火をつける練習を行う
15				刺入・艾炷へ点火	刺鍼練習台上に直刺で3cm刺す(旋捻術・送り込み法) 半米粒大の艾炷を作り、火をつける練習を行う
16				斜刺、水平刺・艾炷へ点火	刺鍼練習台上に斜刺、水平刺の練習を行う 半米粒大の艾炷を作り、火をつける練習を行う
17				斜刺、水平刺・艾炷へ点火	刺鍼練習台上に斜刺、水平刺の練習を行う 半米粒大の艾炷を作り、火をつける練習を行う
18				下腿へ刺鍼・艾炷へ点火	消毒動作を確認し、各自下腿に刺鍼する 半米粒大の艾炷を作り、火をつける練習を行う
19				下腿へ刺鍼・知熱灸	各自下腿へ刺鍼する 艾炷の火を8分で消す練習を行う(透熱灸10分50秒)
20				下腿へ刺鍼・知熱灸	各自下腿に刺鍼する 各自下腿に知熱灸の練習を行う(透熱灸10分55秒)
21				下腿へ刺鍼・知熱灸	各自下腿に刺鍼する 各自下腿に知熱灸の練習を行う(透熱灸10分60秒)
22				下腿へ刺鍼・知熱灸	各自下腿に刺鍼する 各自下腿に知熱灸の練習を行う(透熱灸10分65秒)
23				下腿へ刺鍼・知熱灸	各自下腿に刺鍼する 各自下腿に知熱灸の練習を行う(透熱灸10分70秒)
24				下腿へ刺鍼・知熱灸	各自下腿に刺鍼する 各自下腿に知熱灸の練習を行う(透熱灸10分75秒)
25				下腿へ刺鍼・知熱灸	各自下腿に刺鍼する 各自下腿に知熱灸の練習を行う(透熱灸10分80秒)
26				下腿へ刺鍼・知熱灸	各自下腿に刺鍼する 各自下腿に知熱灸の練習を行う(透熱灸10分85秒)
27				下腿へ刺鍼・知熱灸	各自下腿に刺鍼する 各自下腿に知熱灸の練習を行う(透熱灸10分90秒)
28				試験の準備	
29				試験	
30				試験	
31				まとめ	
32				まとめ	

評価基準

教科書

参考書

実技試験	80%	はりきゅう実技<基礎編>(東洋療法学校協会)	
出席状況	20%		

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	はりきゅう実技応用 I		学年	1 年 期生	
担当者			期別	後期	
単位数	2 単位		講義・実習	実習	
時間数・授業回数	64 時間	32 回	専任・兼任	専任	
実務経験	病院勤務5年、専門学校附属治療院21年				
一般目標 (GIO)					
各経絡の経穴部位を正しく取穴する技術を身につける。 臨床上使用頻度の高い経穴部位への施術を行い、身体部位により異なる刺激方法(刺入角度や刺入深度の違い、部位による感受性の違いなど)を修得する。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1				技術確認	片手挿管、旋撚刺法、送り込み法、透熱・知熱灸が実施できる
2				任脈	経穴部に正しく取穴し、指定した経穴に施術が実施できる
3				任脈	経穴部に正しく取穴し、指定した経穴に施術が実施できる
4				督脈	経穴部に正しく取穴し、指定した経穴に施術が実施できる
5				督脈	経穴部に正しく取穴し、指定した経穴に施術が実施できる
6				手の太陰肺経	経穴部に正しく取穴し、指定した経穴に施術が実施できる
7				手の太陰肺経／手の陽明大腸経	経穴部に正しく取穴し、指定した経穴に施術が実施できる
8				手の陽明大腸経	経穴部に正しく取穴し、指定した経穴に施術が実施できる
9				足の陽明胃経1	経穴部に正しく取穴し、指定した経穴に施術が実施できる
10				足の陽明胃経1	経穴部に正しく取穴し、指定した経穴に施術が実施できる
11				足の陽明胃経2	経穴部に正しく取穴し、指定した経穴に施術が実施できる
12				足の陽明胃経2	経穴部に正しく取穴し、指定した経穴に施術が実施できる
13				足の太陰脾経	経穴部に正しく取穴し、指定した経穴に施術が実施できる
14				足の太陰脾経	経穴部に正しく取穴し、指定した経穴に施術が実施できる
15				手の少陰心経	経穴部に正しく取穴し、指定した経穴に施術が実施できる
16				手の少陰心経／手の太陽小腸経	経穴部に正しく取穴し、指定した経穴に施術が実施できる
17				手の太陽小腸経	経穴部に正しく取穴し、指定した経穴に施術が実施できる
18				足の太陽膀胱経1	経穴部に正しく取穴し、指定した経穴に施術が実施できる
19				足の太陽膀胱経1	経穴部に正しく取穴し、指定した経穴に施術が実施できる
20				足の太陽膀胱経2	経穴部に正しく取穴し、指定した経穴に施術が実施できる
21				足の太陽膀胱経2	経穴部に正しく取穴し、指定した経穴に施術が実施できる
22				足の少陰腎経	経穴部に正しく取穴し、指定した経穴に施術が実施できる
23				足の少陰腎経	経穴部に正しく取穴し、指定した経穴に施術が実施できる
24				手の厥陰心包経	経穴部に正しく取穴し、指定した経穴に施術が実施できる
25				手の厥陰心包経／手の少陽三焦経	経穴部に正しく取穴し、指定した経穴に施術が実施できる
26				手の少陽三焦経	経穴部に正しく取穴し、指定した経穴に施術が実施できる
27				足の少陽胆経1	経穴部に正しく取穴し、指定した経穴に施術が実施できる
28				足の少陽胆経1	経穴部に正しく取穴し、指定した経穴に施術が実施できる
29				足の少陽胆経2	経穴部に正しく取穴し、指定した経穴に施術が実施できる
30				足の少陽胆経2	経穴部に正しく取穴し、指定した経穴に施術が実施できる
31				足の厥陰肝経	経穴部に正しく取穴し、指定した経穴に施術が実施できる
32				足の厥陰肝経	経穴部に正しく取穴し、指定した経穴に施術が実施できる
評価基準			教科書		参考書
鍼試験	60%	新版 経絡経穴概論(医道の日本社)			
灸試験	30%				
平常点	10%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	ソーシャルコミュニケーション		学年	2 年 期生	
担当者			期 別	後期	
単 位 数	2 単位		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	32 時間	16 回	専任・兼任	兼任	
実務経験	【教育実績】1991～2000、08～09、09～22 小・中学校 専門学校 【臨床実績】2009～2023 専門学校附属治療院				
一般目標 (GIO)					
治療院を開業及び就職するために必要な情報を提供し、地域社会に生きる1人の鍼灸師としての自覚と同業者や患者とのコミュニケーションについて学習する。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1				資格を持つということ	患者に対する鍼灸師としての自分の責任について考える。
2				現在の労働問題について	日本と世界の労働環境の歴史と違いについて理解する。
3				大学生の就職活動と私たちの就職活動の違いについて	即戦力として求められることを理解する。
4				エントリーシートと履歴書の違いと書き方について I	エントリーシートと履歴書それぞれの項目について理解する。
5				エントリーシートと履歴書の違いと書き方について II	自分自身のことをそれぞれの項目に書くことができる。
6				エントリーシートと履歴書の違いと書き方について III	自分自身のことをそれぞれの項目に書くことができる。
7				求人票の見方	求人票の項目について理解する。
8				就職するということ	鍼灸師としての自覚と職場の仲間や患者とのコミュニケーションの大切さを理解する。
9				開業するということ	経営者としての責任と地域社会とのコミュニケーションの大切さを理解する。
10				開業に関する手続きについて	患者に対する鍼灸師としての自分の責任について考える。
11				組合の入会及び手続きについて I	組合の入会に必要な書類の書き方、提出先を知る。
12				組合の入会及び手続きについて II	組合に入会するメリットとデメリットを理解する。
13				創業資金について	創業資金の調達方法について考える。
14				創業計画書の作成	日本政策金融公庫から創業資金を借り入れると仮定し、創業計画書の項目を確認し記入する。
15				筆記試験	
16				全体のまとめと復習	
評価基準			教科書		参考書
課題提出	30%	自作プリント			
筆記試験	20%				
出席日数	30%				
授業態度	20%				

1限目 (9:00～10:30)

2限目 (10:40～12:10)

3限目 (12:30～14:00)

科目名	解剖学IV		学年	2年	期生
担当者			期別	前期	
単位数	2		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	64時間・32回		専任・兼任	専任 兼任	
実務経験	臨床1年				
一般目標(GIO)					
人体の構成を理解することで、将来、はり師・きゅう師として施術の危険性を察知できる能力を身につけさせ、かつ、医学に対する興味を持たせ、より良い医療人を育成することを目標に位置づけている。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1				内分泌系(下垂体、松果体)	下垂体前葉・後葉・松果体のホルモンの作用が説明できる。
2				内分泌系(甲状腺、副甲状腺、上皮小体)	甲状腺・副甲状腺・上皮小体のホルモンの作用が説明できる。
3				内分泌系(副腎、膵臓)	副腎・膵臓のホルモンの説明ができる。
4				神経系総論(神経系とは)	神経系の概要を理解する。
5				頭神経叢・腕神経叢について 体幹の神経について	上肢と体幹の神経が説明できる。
6				下肢の神経について	下肢の神経が説明できる。
7				脳神経について	脳神経が説明できる。
8				自律神経について	自律神経が説明できる。
9				中枢神経系(脊髄・延髄・橋・中脳)	脊髄・延髄・橋・中脳が説明できる。
10				中枢神経系(小脳・間脳・大脳)	小脳・間脳が説明できる。
11				中枢神経系(大脳・脳室)	大脳・脳室が説明できる。
12				中枢神経系(髄膜・脳脊髄液・脳の血管)	髄膜・脳脊髄液・脳の血管が説明できる。
13				神経系 伝導路	伝導路が説明できる。
14				神経系 まとめ①	神経系概要が説明できる。
15				神経系 まとめ②	神経系概要が説明できる。
16				視覚器①	視覚器が説明できる。
17				視覚器②	視覚器が説明できる。
18				平衡聴覚器①	平衡聴覚器が説明できる。
19				平衡聴覚器②	平衡聴覚器が説明できる。
20				味覚器①	味覚器が説明できる。
21				味覚器②	味覚器が説明できる。
22				神経系・感覚器系 まとめ①	感覚器概要が説明できる。
23				神経系・感覚器系 まとめ②	感覚器概要が説明できる。
24				神経系・感覚器系 まとめ③	感覚器概要が説明できる。
25				神経系・感覚器系 まとめ④	感覚器概要が説明できる。
26				解剖学 まとめ①	解剖学の知識を臨床医学に関する知識に昇華することができる。
27				解剖学 まとめ②	解剖学の知識を臨床医学に関する知識に昇華することができる。
28				解剖学 まとめ③	解剖学の知識を臨床医学に関する知識に昇華することができる。
29				解剖学 まとめ④	解剖学の知識を臨床医学に関する知識に昇華することができる。
30				解剖学 まとめ⑤	解剖学の知識を臨床医学に関する知識に昇華することができる。
31				解剖学 まとめ⑥	解剖学の知識を臨床医学に関する知識に昇華することができる。
32				前期試験返却・解説	
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	解剖学 第2版 東洋療法学校協会		生理学 第3版 東洋療法学校協会	

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	生理学V			学年	2年 期生
担当者				期別	前期
単位数	1 単位			講義・実習	講義
時間数・授業回数	32時間 16回			専任・兼任	専任
実務経験	専門学校付属鍼灸院 14年				
一般目標(GIO)					
<p>鍼灸師にとって必要な人体の機能を学び、患者の状態を正しく理解し、鍼灸治療の効果がどのようにして発揮されるかについて理解するための基礎知識を修得する。</p> <p>人の健康はホメオスタシスによって保たれ、この「乱れ」は疾患を招く。本科目を通じて人体の誕生や生命維持のメカニズムを修得する。</p>					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1				生殖	男性生殖器・女性生殖器について説明できる。
2				妊娠と出産	受精・着床・妊娠について説明できる。
3				妊娠と出産	胎児の発育・分娩・乳汁分泌について説明できる。
4				成長	身長 体重の経時的変化・身体各部位の成長・各器官の成長について説明できる。
5				老化	細胞の寿命・生理的老化の特徴・身体機能の加齢変化について説明できる。
6				生体の防御機構	非特異的防御機構(自然免疫)・特異的防御機構(獲得免疫)について説明できる。
7				生体の防御機構	白血球の働きについて説明できる。
8				生体の防御機構	免疫系に働く液性因子について説明できる。
9				生体の防御機構	リンパ系器官について説明できる。
10				免疫反応	液性免疫と細胞性免疫について説明できる。
11				免疫反応	炎症について説明できる。
12				免疫反応	アレルギー・自己免疫疾患について説明できる。
13				生体の適応	気候馴化・高地馴化について説明できる。
14				恒常性維持	血圧と血液量の調節・体液の電解質調節について説明できる。
15				恒常性維持	血糖調節・体温調節について説明できる。
16				バイオリズム	睡眠 覚醒・自律神経 内分泌機能の日内リズムについて説明できる。
評価基準			教科書		参考書
定期試験(筆記試験) 100%			生理学 第3版 (東洋療法学校協会編)		

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	病理学概論		学年	2年	期生
担当者			期別	後期	
単位数	2単位		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	32時間	16回	専任・兼任	兼任	
実務経験	専門学校講師18年 臨床16年				
一般目標(GIO)					
病理学について理解し、疾病の成り立ちを考える力を身に着ける。					
国家試験に必要な知識を身に着ける。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1				授業ガイダンス	病理学を知る 病因について説明できる
2				病因	多様な病因について理解し説明できる
3				循環障害	循環障害について理解し説明できる
4				循環障害	循環障害について理解し説明できる
5				退行性病変	退行性病変について理解し説明できる
6				退行性病変	退行性病変について理解し説明できる
7				進行性病変	進行性病変について理解し説明できる
8				進行性病変	進行性病変について理解し説明できる
9				炎症	炎症について理解し説明できる
10				炎症	炎症について理解し説明できる
11				腫瘍	腫瘍について理解し説明できる
12				腫瘍	腫瘍について理解し説明できる
13				免疫異常アレルギー	免疫異常アレルギーについて理解し説明できる
14				先天性異常	先天性異常について理解し説明できる
15				先天性異常	先天性異常について理解し説明できる
16				期末試験返却・解説	期末試験の結果について自己分析できる。
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	東洋療法学校協会『病理学』 (医歯薬出版株式会社)			
	%				
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	臨床医学総論 I		学年	2 年 期生	
担当者			期 別	後期	
単 位 数	2		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	32時間・16回		専任・兼任	専任	
実務経験	病院1年、鍼灸接骨院3年、専門学校附属治療院11年、専門学校専任教員11年				
一般目標 (GIO)					
<p>診察における病態把握のための知識を習得し、東洋医学の知識だけでなく、西洋医学の知識も習得し、臨床症状や理学検査の方法を正しく理解する。</p> <p>本科目では、全身的な診察、運動機能の評価、症状別の診察法についての知識の習得を目標とする。</p>					
回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1				診察の概要、医療面接	医療面接に必要な知識が説明・実践できる
2				生命徴候の診察1	体温、脈拍の変化における病態を説明できる
3				生命徴候の診察2	血圧、呼吸の変化における病態を説明できる
4				視診1	顔貌、精神・意識状態の変化における病態を説明できる
5				視診2	言語、体格の変化における病態を説明できる
6				視診3	姿勢と体位、歩行の変化における病態を説明できる
7				視診4	皮膚の変化における病態を説明できる
8				視診5	爪、リンパ節、頭部、顔面部の変化における病態を説明できる
9				視診6	眼、鼻の変化における病態を説明できる
10				視診7	口腔の変化における病態を説明できる
11				視診8	頸部、胸部、腹部の変化における病態を説明できる
12				視診9	腰背部、四肢の変化における病態を説明できる
13				打診	打診の概要、各部位の打診所見の変化における病態を説明できる
14				聴診	聴診の概要、各部位の聴診所見の変化における病態を説明できる
15				触診	触診の概要、各部位の聴診所見の変化における病態を説明できる
16				テスト返却・解説	
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	臨床医学総論(東洋療法学校協会)			フィジカルアセスメントがみえる(メディックメディア)

1限目 (9:00～10:30)

2限目 (10:40～12:10)

3限目 (12:30～14:00)

科目名	臨床医学各論 I		学年	2 年	期生
担当者			期別	前期	
単位数	2 単位		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	32時間 16回		専任・兼任	専任	
実務経験	特別支援学校附属治療院8年 専門学校附属治療院19年				
一般目標 (GIO)					
<p>人体の疾病についてその病態生理を解剖学・生理学・病理学分野を絡めながら理解し、代表的な疾患についての知識を修得する。</p> <p>治療院の臨床現場ではあらゆる疾患に遭遇する可能性がある。鍼灸治療の範疇をこえる患者が来院した際、それを直ぐに判断し、病態・病状の概要が説明でき、専門の病院を紹介すると共に、医師と連携してその後のサポートができる様な能力を身に付ける。</p>					
回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1				感染症	細菌感染症の種類や特徴について説明できる。
2				感染症	細菌感染症の種類や特徴について説明できる。
3				感染症	ウイルス感染症の種類や特徴について説明できる。
4				感染症	ウイルス感染症の種類や特徴について説明できる。
5				呼吸器疾患	感染性呼吸器疾患について説明できる。
6				呼吸器疾患	閉塞性呼吸器疾患について説明できる。
7				呼吸器疾患	拘束性呼吸器疾患について説明できる。
8				呼吸器疾患	肺癌を中心とするその他の呼吸器疾患について説明できる。
9				腎・尿器疾患	原発性糸球体疾患について説明できる。
10				腎・尿器疾患	腎不全について説明できる。
11				腎・尿器疾患	腫瘍・結石・前立腺疾患について説明できる。
12				内分泌疾患	内分泌の解剖・生理について復習・確認をさせる。
13				内分泌疾患	下垂体疾患について説明できる。
14				内分泌疾患	甲状腺疾患について説明できる。
15				内分泌疾患	副腎疾患について説明できる。
16				内分泌疾患	副腎疾患について説明できる。
評価基準			教科書		参考書
定期試験(筆記試験)のみ			臨床医学各論 第2版 (東洋療法学校協会編)		病気がみえる (メディックメディア)

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	臨床医学各論Ⅱ		学年	2 年 期生	
担当者			期 別	前期	
単 位 数	2		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	32時間・16回		専任・兼任	専任	
実務経験	病院1年、鍼灸接骨院3年、専門学校附属治療院11年、専門学校専任教員11年				
一般目標(GIO)					
<p>人体の各臓器・器官における代表的な疾患についての病態生理を理解する。</p> <p>本科目では各疾患を学習する際、解剖学・生理学分野の解説を絡めながら、患者と接した時、医療従事者として対応できるだけの知識・能力の習得を目標とする</p>					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1				口腔疾患	代表的な口腔疾患の病態を理解し説明できる
2				食道疾患	代表的な食道疾患の病態を理解し説明できる
3				胃疾患	代表的な胃疾患の病態を理解し説明できる
4				腸疾患	代表的な腸疾患の病態を理解し説明できる
5				肝臓疾患	代表的な肝臓疾患の病態を理解し説明できる
6				胆疾患	代表的な胆疾患の病態を理解し説明できる
7				膵臓疾患	代表的な膵臓疾患の病態を理解し説明できる
8				小児科疾患	代表的な小児科疾患の病態を理解し説明できる
9				婦人科疾患1	代表的な婦人科疾患の病態を理解し説明できる
10				婦人科疾患2	代表的な婦人科疾患の病態を理解し説明できる
11				皮膚疾患	代表的な皮膚疾患の病態を理解し説明できる
12				眼科・耳鼻科疾患	代表的な眼科・耳鼻科疾患の病態を理解し説明できる
13				精神疾患・心療内科1	代表的な精神疾患・心療内科の病態を理解し説明できる
14				精神疾患・心療内科2	代表的な精神疾患・心療内科の病態を理解し説明できる
15				膠原病・自己免疫疾患	代表的な膠原病・自己免疫疾患の病態を理解し説明できる
16				テスト返却・解説	
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	臨床医学各論(医歯薬出版) 新版東洋医学臨床論(南江堂)			病気がみえる(メディックメディア)

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	臨床医学各論Ⅲ		学年	2年	期生
担当者			期別	前期	
単位数	2単位		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	32時間 16回		専任・兼任	専任	
実務経験	特別支援学校附属治療院8年 専門学校附属治療院19年				
一般目標(GIO)					
<p>人体の疾病についてその病態生理を解剖学・生理学・病理学分野を絡めながら理解し、代表的な疾患についての知識を修得する。</p> <p>治療院の臨床現場ではあらゆる疾患に遭遇する可能性がある。鍼灸治療の範疇をこえる患者が来院した際、それを直ぐに判断し、病態・病状の概要が説明でき、専門の病院を紹介すると共に、医師と連携してその後のサポートができる様な能力を身に付ける。</p>					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1				代謝・栄養疾患	糖代謝異常について説明できる。
2				代謝・栄養疾患	脂質代謝異常について説明できる。
3				代謝・栄養疾患	尿酸代謝異常について説明できる。
4				代謝・栄養疾患	ビタミン欠乏症・過剰症について説明できる。
5				循環器疾患	心不全について説明できる。
6				循環器疾患	心臓弁膜(僧帽弁)疾患について説明できる。
7				循環器疾患	心臓弁膜(動脈弁)疾患について説明できる。
8				循環器疾患	不整脈と代表的な先天性心疾患について説明できる。
9				循環器疾患	狭心症について説明できる。
10				循環器疾患	心筋梗塞について説明できる。
11				循環器疾患	動脈硬化症・大動脈瘤・大動脈解離について説明できる。
12				循環器疾患	高血圧症や血血圧症について説明できる。
13				血液・造血器疾患	赤血球疾患について説明できる。
14				血液・造血器疾患	白血球疾患について説明できる。
15				血液・造血器疾患	リンパ網内系疾患について説明できる。
16				血液・造血器疾患	出血性素因について説明できる。
評価基準			教科書		参考書
定期試験(筆記試験)のみ			臨床医学各論 第2版 (東洋療法学校協会編)		病気がみえる (メディックメディア)

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	臨床医学各論Ⅳ		学年	2 年 期生	
担当者			期別	後期	
単位数	2 単位		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	32時間 16回		専任・兼任	専任	
実務経験	特別支援学校附属治療院8年 専門学校附属治療院19年				
一般目標(GIO)					
<p>人体の疾病についてその病態生理を解剖学・生理学・病理学分野を絡めながら理解し、代表的な疾患についての知識を修得する。</p> <p>治療院の臨床現場ではあらゆる疾患に遭遇する可能性がある。鍼灸治療の範疇をこえる患者が来院した際、それを直ぐに判断し、病態・病状の概要が説明でき、専門の病院を紹介すると共に、医師と連携してその後のサポートができる様な能力を身に付ける。</p>					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1				脳血管疾患	脳梗塞・一過性脳虚血発作について説明できる。
2				脳血管疾患	脳出血について説明できる。
3				脳血管疾患	クモ膜下出血について説明できる。
4				感染性疾患	髄膜炎について説明できる。
5				感染性疾患	神経梅毒・ポリオについて説明できる。
6				脳・脊髄腫瘍	脳腫瘍について説明できる。
7				脳・脊髄腫瘍	脊髄腫瘍について説明できる。
8				基底核変性疾患	パーキンソン病・ハンチントン舞踏病について説明できる。
9				基底核変性疾患	脳性小児麻痺・ウイルソン病について説明できる。
10				その他の変性疾患	脊髄小脳変性症・脊髄空洞症・進行性核上性麻痺について説明できる。
11				認知症性疾患	アルツハイマー病・脳血管型認知症について説明できる。
12				認知症性疾患	ピック病・レビー小体型認知症・一般身体疾患に伴う認知症について説明できる。
13				筋疾患	重症筋無力症・筋ジストロフィーについて説明できる。
14				運動ニューロン疾患	筋萎縮性側索硬化症について説明できる。
15				末梢神経性疾患	ギランバレー症候群・圧迫性絞扼性ニューロパシー・顔面神経麻痺について説明できる。
16				神経痛・機能性疾患	神経痛・頭痛について説明できる。
評価基準			教科書		参考書
定期試験(筆記試験)のみ			臨床医学各論 第2版 (東洋療法学校協会編)		病気がみえる (メディックメディア)

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	臨床医学各論V	学年	2年 期生
担当者		期別	後期
単位数	2	講義・実習	講義
時間数・授業回数	32時間・16回	専任・兼任	専任
実務経験	専門学校付属鍼灸院 14年		

一般目標(GIO)

臨床で遭遇する可能性の高い整形外科疾患を中心に、概念・診断・治療・予後を含め学ぶ。

疾患ごとに、説明ができることを目標にする。

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1				総論	保存的治療と観血的治療、画像診断について理解する
2				関節疾患	関節炎、関節の可動域の異常を理解し説明できる
3				関節疾患	五十肩、変形性関節症について理解し説明できる
4				骨代謝性疾患・骨腫瘍	骨粗しょう症、くる病・骨軟化症について理解し説明できる
5				骨代謝性疾患・骨腫瘍	骨腫瘍について理解し説明できる
6				筋・腱疾患	筋肉炎、筋膜炎、腱鞘炎、重症筋無力症について理解し説明できる
7				形態異常	先天性股関節脱臼、斜頸、側彎症、外反母趾、内反足について理解し説明できる
8				脊椎疾患	椎間板ヘルニア、後縦靭帯骨化症、脊椎分離症・すべり症、変形性脊椎症について理解し説明できる
9				脊椎疾患	脊柱管狭窄症、腰痛症、頸椎捻挫・むちうちについて理解し説明できる
10				脊髄損傷	脊髄損傷について理解し説明できる
11				外傷	骨折、脱臼、捻挫について理解し説明できる
12				外傷	スポーツ外傷・障害について理解し説明できる
13				その他の整形疾患	胸郭出口症候群、頸肩腕症候群について理解し説明できる
14				その他の整形疾患	ガングリオン、手根管症候群について理解し説明できる
15				復習	
16				テスト返却・解説	
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	臨床医学各論(東洋療法学校協会)		病気がみえる vol.11 運動器・整形外科(メディックメディア)	
				標準整形外科学(医学書院)	
				全部見える スーパービジュアル整形外科疾患(成美堂出版)	
				整形外科疾患ビジュアルブック(学研)	

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	はりきゅう理論Ⅱ		学年	2 年 期生	
担当者			期 別	前期	
単 位 数	1 単位		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	16 時間	8 回	専任・兼任	兼任	
実務経験	専門学校講師18年 臨床16年				
一般目標(GIO)					
はり・きゅう理論の9章(鍼灸治効の基礎)～11章(関連学説)を理解し説明できる。					
鍼灸の治効理論を科学的な見地から説明できる。					
国家試験に必要な知識を身につける。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1				痛み感覚の受容と伝達	痛覚について理解し説明できる
2				温度・触圧感覚の受容と伝達	温度・触圧感覚について理解し説明できる
3				鍼鎮痛	鍼鎮痛について理解し説明できる
4				生体への刺激と反応	生体への刺激と反応について理解し説明できる
5				鍼灸が自律神経へ及ぼす機構	鍼灸が自律神経へ及ぼす機構について理解し説明できる
6				鍼灸と生体防御へ及ぼす機構	鍼灸と生体防御へ及ぼす機構について理解し説明できる
7				関連学説	関連学説について理解し説明できる
8				関連学説	関連学説について理解し説明できる
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
評価基準			教科書		参考書
		%	東洋療法学校協会『はりきゅう理論』 (医歯薬出版株式会社)		
		%			
		%			
		%			

1限目(9:00～10:30)

2限目(10:40～12:10)

3限目(12:30～14:00)

科目名	経絡経穴概論Ⅱ		学年	2 年 期生	
担当者			期別	前期	
単位数	2 単位		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	32 時間	16 回	専任・兼任	専任	
実務経験	病院勤務5年、専門学校附属治療院21年				
一般目標 (GIO)					
鍼灸師として必須の経絡経穴の知識を修得する。					
・奇経八脈、奇穴、組み合わせ経穴、八会穴、四総穴、八総穴、下合穴などの要穴を身につける。					
・経絡経穴の現代的な研究を理解する。					
・身体各部位の経穴横並び、経穴に関連する筋・神経・血管を理解する。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1				十四経脈の位置関係	身体における十四経脈の位置関係が説明できる
2				正経十二経脈の接続部	正経十二経脈の接続部が説明できる
3				奇経八脈	奇経八脈の経穴と流れが説明できる
4				要穴	四総穴・八会穴・八脈交会穴・交会穴・下合穴・禁鍼禁灸穴が説明できる
5				奇穴	頭頸部・胸腹部・背部の奇穴名および部位が説明できる
6				奇穴	上肢・下肢の奇穴名および部位が説明できる
7				経絡・経穴の現代的な研究	経絡の現象が説明できる
8				経絡・経穴の現代的な研究	経穴の現象が説明できる
9				上肢および下肢の経穴	十二経脈の上肢・下肢の経穴の位置関係が説明できる
10				頭頸部および胸腹部の経穴	十二経脈の頭頸部・胸腹部の経穴の位置関係が説明できる
11				背部および殿部の経穴	十二経脈の背部・殿部の経穴の位置関係が説明できる
12				経穴と解剖学的位置関係	上肢・下肢の経穴と筋の関連が説明できる
13				経穴と解剖学的位置関係	頭頸部・胸腹部・背部・殿部の経穴と筋の関連が説明できる
14				経穴と解剖学的位置関係	経穴と知覚神経の関連が説明できる
15				経穴と解剖学的位置関係	経穴と血管の関連が説明できる
16				テストの返却と解説	
評価基準			教科書		参考書
定期試験	100%	新版 経絡経穴概論 (医道の日本社)			図説 東洋医学 基礎篇 (学研)
	%				PT・OT・STのための解剖学 (廣川書店)
	%				経穴マップ (医歯薬出版)
	%				

1限目 (9:00～10:30)

2限目 (10:40～12:10)

3限目 (12:30～14:00)

科目名	経絡経穴概論Ⅲ		学年	2 年 期生	
担当者			期別	後期	
単位数	2 単位		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	32 時間	16 回	専任・兼任	専任	
実務経験	病院勤務5年、専門学校附属治療院21年				
一般目標 (GIO)					
鍼灸師として必須の経絡経穴の知識を修得する。					
・ドリル形式で、身体各部の経穴および要穴を確認し身につける。					
・問題を解くことにより苦手分野を知り、正しい知識を身につける。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1				経絡の概説	経絡の走行・接続部・骨度法などの正誤を理解し正しく記述が出来る
2				督脈・任脈	経穴名、部位、解剖の正誤を理解し正しく記述が出来る
3				手太陰肺経、手陽明大腸経	経穴名、部位、解剖の正誤を理解し正しく記述が出来る
4				足陽明胃経、足太陰脾経	経穴名、部位、解剖の正誤を理解し正しく記述が出来る
5				手少陰心経、手太陽小腸経	経穴名、部位、解剖の正誤を理解し正しく記述が出来る
6				足太陽膀胱経、足少陰腎経	経穴名、部位、解剖の正誤を理解し正しく記述が出来る
7				手厥陰心包経、手少陽三焦経	経穴名、部位、解剖の正誤を理解し正しく記述が出来る
8				足少陽胆経、足厥陰肝経	経穴名、部位、解剖の正誤を理解し正しく記述が出来る
9				胸部・腹部・背部の経穴	経穴名、部位、解剖の正誤を理解し正しく記述が出来る
10				上肢・下肢の経穴	経穴名、部位、解剖の正誤を理解し正しく記述が出来る
11				頭頸部・顔面部の経穴	経穴名、部位、解剖の正誤を理解し正しく記述が出来る
12				五腧穴・五行穴	経穴名、要穴名を取穴部位から判断できる
13				五要穴	経穴名、要穴名を取穴部位から判断できる
14				四総穴・八会穴・八総穴・下合穴	経穴名、要穴名を取穴部位から判断できる
15				すべての要穴	経穴名、要穴名を取穴部位から判断できる
16				経穴カルタ大会	要穴名から判断し、正しい経穴札が選択できる
評価基準			教科書		参考書
定期試験	100%	新版 経絡経穴概論 (医道の日本社)			
	%				
	%				
	%				

1限目 (9:00～10:30)

2限目 (10:40～12:10)

3限目 (12:30～14:00)

科目名	東洋医学臨床論 I		学年	2 年 期生	
担当者			期 別	前期	
単 位 数	4		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	64時間・32回		専任・兼任	専任・兼任	
実務経験	専門学校講師10年、臨床12年				
一般目標(GIO)					
臨床現場において東洋医学的な治療を適切に行えるよう能力の向上を目指す。また東洋医学概論や経絡経穴概論の強化を図る。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1				総論(治療法)① 教科書P4-51	東洋医学臨床論の概要を理解する。
2				総論(治療法)②	経穴がもつ特性を知る
3				総論(治療法)③	要穴表の重要性を再認識してもらう
4				総論(治療法)④	要穴表を暗記する①
5				総論 まとめ	要穴表を暗記する②
6				第2章 各論 第1節 疼痛① 概説、頭痛、顔面痛 P55-98	頭痛の西洋医学的疾患を把握する
7				頭痛、顔面痛②	頭痛の東洋医学的疾患を把握する
8				頭痛、顔面痛③	顔面痛の西洋医学的疾患を把握する
9				頭痛、顔面痛④	顔面痛の東洋医学的疾患を把握する
10				頭痛、顔面痛⑤	頭痛と顔面痛の問題傾向を知る
11				疼痛② 整形外科疾患 P99-163 頸頸腕痛	頸肩腕痛の西洋医学的疾患を把握する
12				整形外科疾患 P99-163 頸頸腕痛	頸肩腕痛の問題傾向を知る
13				整形外科疾患 P99-163 上肢痛	上肢痛の西洋医学的疾患を把握し、問題傾向を知る
14				整形外科疾患 P99-163 肩関節痛	肩関節痛の西洋医学的疾患を把握し、問題傾向を知る
15				整形外科疾患 P99-163 腰下肢痛	腰下肢痛の西洋医学的疾患を把握し、問題傾向を知る①
16				整形外科疾患 P99-163 腰下肢痛	上肢痛の西洋医学的疾患を把握し、問題傾向を知る②
17				整形外科疾患 P99-163 腰痛	腰痛の西洋医学的疾患を把握し、問題傾向を知る
18				整形外科疾患 P99-163 下肢痛	下肢痛の西洋医学的疾患を把握し、問題傾向を知る
19				整形外科疾患 P99-163 膝痛	膝痛の西洋医学的疾患を把握し、問題傾向を知る
20				整形外科 まとめ	整形疾患をまとめる
21				第2章 各論 第1節 疼痛③ 胸痛、腹痛 P164-180	胸痛と腹痛の西洋医学的疾患を把握する
22				胸痛、腹痛②	胸痛と腹痛の東洋医学的疾患を把握する
23				胸痛、腹痛③	胸痛と腹痛の問題傾向を知る
24				第2章 各論 第2節 臓腑と関連する症候 肝系統① 胆汁酸、気分障害(うつ状態)、めまい P181-207	肝系統の西洋医学的疾患を把握する
25				肝系統②	肝系統の東洋医学的疾患を把握する
26				肝系統③	肝系統の問題傾向を知る
27				肝系統まとめ	肝系統をまとめる
28				心系統① 動悸・息切れ、血圧異常、睡眠障害 P208-231	心系統の西洋医学的疾患を把握する
29				心系統②	心系統の東洋医学的疾患を把握する
30				心系統③	心系統の問題傾向を知る
31				心系統まとめ	心系統をまとめる
32				前期のまとめ	前期のまとめ
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	新版東洋医学臨床論<はりきゅう編>東洋療法学校協会		病気がみえる	

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	東洋医学臨床論Ⅱ		学年	2 年 期生	
担当者			期別	後期	
単位数	4		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	64時間・32回		専任・兼任	専任	
実務経験	専門学校講師10年、臨床12年				
一般目標(GIO)					
臨床現場において東洋医学的な治療を適切に行えるよう能力の向上を目指す。また東洋医学概論や経絡経穴概論の強化を図る。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1				脾系統① 食欲不振、肥満、やせ(るい瘦)、悪心嘔吐、便秘、下痢、唐痛 P232-281	脾系統の西洋医学的疾患を把握する
2				脾系統②	脾系統の東洋医学的疾患を把握する
3				脾系統③	脾系統の問題傾向を知る
4				脾系統④	脾系統のまとめ
5				肺系統① 咳嗽と喀痰、呼吸困難、鼻閉と鼻汁 P282-313	肺系統の西洋医学的疾患を把握する
6				肺系統②	肺系統の東洋医学的疾患を把握する
7				肺系統③	脾系統の問題傾向を知る
8				腎系統① 脱毛症、耳鳴り難聴、排尿障害、ED P314-354	腎系統の西洋医学的疾患を把握する
9				腎系統②	腎系統の東洋医学的疾患を把握する
10				腎系統③	腎系統の問題系統を知る
11				脾系統、肺系統、腎系統のまとめ	まとめ
12				全身の症候① 疲労と倦怠感、発熱、冷え、のぼせ、浮腫、掻痒(かゆ)感・肌荒れ・発疹 P355-404	全身の症候の西洋医学的疾患を把握する
13				全身の症候②	全身の症候の東洋医学的疾患を把握する
14				全身の症候③	全身の症候の問題傾向を知る
15				全身の症候④	全身の症候のまとめ
16				その他の症候① 顔面麻痺、歩行異常、口渇、出血傾向 P405-438	その他の症候の西洋医学的疾患を把握する
17				その他の症候②	その他の症候の東洋医学的疾患を把握する
18				その他の症候③	その他の症候の問題傾向を知る
19				全身、その他の症候のまとめ	まとめ
20				女性特有の症候① 月経異常、性器出血、帯下、不妊症、つわり、逆子、乳汁分泌不全 P439-500	女性特有の症候の西洋医学的疾患を把握する①
21				女性特有の症候②	女性特有の症候の西洋医学的疾患を把握する②
22				女性特有の症候③	女性特有の症候の東洋医学的疾患を把握する①
23				女性特有の症候④	女性特有の症候の東洋医学的疾患を把握する②
24				女性特有の症候⑤	女性特有の症候の問題傾向を知る
25				小児特有の症候① 瘧の虫、夜尿症、小児喘息 P501-528	小児特有の症候の西洋医学的疾患を把握する
26				小児特有の症候②	小児特有の症候の東洋医学的疾患を把握する
27				小児特有の症候③	小児特有の症候の問題傾向を知る
28				小児特有の症候④	小児特有の症候のまとめ
29				老年特有の症候① 認知症、パーキンソン病、ロコモ、サルコペニア P529-548	老年特有の症候の西洋医学的疾患を把握する
30				老年特有の症候②	老年特有の症候の東洋医学的疾患を把握する
31				老年特有の症候③	老年特有の症候の問題傾向を知る
32				女性、小児、老年特有の症候のまとめ	まとめ
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	新版 東洋医学臨床論(はりきゅう編)		病気がみえる	

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	はりきゅう実技応用Ⅱ		学年	2 年 期生	
担当者			期別	前期	
単位数	2 単位		講義・実習	実技	
時間数・授業回数	64 時間	32 回	専任・兼任	専任	
実務経験	病院勤務5年、専門学校附属治療院21年				
一般目標(GIO)					
主要症候の鍼灸治療において、東洋医学的な考え方(東洋医学概論で学習する疾病観、診断論、治療論など)と現代医学的考え方(疾病についての現代医学の知識や鍼灸治療の適・不適の判断など)、双方からのアプローチができるような知識と技術を養う。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1				温筒灸の比較	複数の温筒灸を比較することで、それぞれの違いを判断することができる
2					
3				主な反応点の種類と探索1	反応点探索の順序に沿って触診ができる 圧痛点・過敏点・硬結・緊張・陥下の違いを識別できる
4					
5				主な反応点の種類と探索2	背部の触診ができ、反応点の違いを識別できる 反応点に適切な施術が実施できる
6					
7				主な反応点の種類と探索3	腹部の触診ができ、反応点の違いを識別できる 反応点に適切な施術が実施できる
8					
9				低周波鍼通電療法1	低周波鍼通電機器を正しく操作できる
10					
11				小児疾患	小児針・鍍針を用いた施術が実施できる
12					
13				円皮鍼・皮内鍼	円皮鍼・皮内鍼を用いた施術が実施できる 耳鍼が実施できる
14					
15				呼吸器疾患1	鼻閉・鼻汁に対する施術が実施できる
16					
17				消化器疾患1	胃痛・腹痛に対する施術が実施できる
18					
19				テスト1	背部兪穴および募穴への施術が時間内に正しく実施できる
20					
21				婦人科疾患1	月経異常に対する施術が実施できる
22					
23				消化器疾患2	悪心・嘔吐・食欲不振に対する施術が実施できる
24					
25				低周波鍼通電療法2	上肢および体幹の指定された筋に正しく鍼通電が実施できる
26					
27				低周波鍼通電療法3	下肢および殿部の指定された筋に正しく鍼通電が実施できる
28					
29				テスト2	指定された筋に時間内に正しく鍼通電が実施できる
30					
31				呼吸器疾患2	咳嗽・喘息に対する施術が実施できる
32					
評価基準			教科書		参考書
実技試験	100%	はりきゅう実技〈基礎編〉(医道の日本社)			図解鍼灸臨床手技マニュアル(医歯薬出版) 鍼通電療法テクニック(医道の日本社)
	%	東洋医学臨床論〈はりきゅう編〉(医道の日本社)			
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	はりきゅう実技応用Ⅳ		学年	2 年 期生	
担当者			期 別	後期	
単 位 数	2		講義・実習	実習	
時間数・授業回数	64時間・32回		専任・兼任	専任	
実務経験	専門学校付属鍼灸院 14年				
一般目標(GIO)					
問診における基本的な聴取項目、聴き方、接し方、触診の基本的なやり方、理学検査の復習と確認、それらの得られた所見から病態把握、診療録の書き方などを行えるように、その知識・技術の習得を目標とする					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1				医療面接の進め方	問診から治療までの大まかな流れを把握している
2				医療面接の進め方	問診から治療までの大まかな流れを把握している
3				聴取項目と診療録の書き方	問診が的確に聴取でき、その内容を診療録に記入できる
4				聴取項目と診療録の書き方	問診が的確に聴取でき、その内容を診療録に記入できる
5				患者との話し方・聴き方	患者とコミュニケーションが取れる
6				患者との話し方・聴き方	患者とコミュニケーションが取れる
7				触診のやり方	触る時の注意点や各部位の触診法を実践できる
8				触診のやり方	触る時の注意点や各部位の触診法を実践できる
9				東洋医学的四診	望・聞・問・切の四診の所見が的確に取れる
10				東洋医学的四診	望・聞・問・切の四診の所見が的確に取れる
11				東洋医学的四診	望・聞・問・切の四診の所見が的確に取れる
12				東洋医学的四診	望・聞・問・切の四診の所見が的確に取れる
13				初診患者のロールプレイ	初診患者に対し、問診から治療までを的確に行える
14				初診患者のロールプレイ	初診患者に対し、問診から治療までを的確に行える
15				初診患者のロールプレイ	初診患者に対し、問診から治療までを的確に行える
16				初診患者のロールプレイ	初診患者に対し、問診から治療までを的確に行える
17				初診患者のロールプレイ	初診患者に対し、問診から治療までを的確に行える
18				初診患者のロールプレイ	初診患者に対し、問診から治療までを的確に行える
19				再診患者の医療面接の進め方	再診患者の所見が的確に取れる
20				再診患者の医療面接の進め方	再診患者の所見が的確に取れる
21				再診患者のロールプレイ	再診患者に対し、問診から治療までを的確に行える
22				再診患者のロールプレイ	再診患者に対し、問診から治療までを的確に行える
23				再診患者のロールプレイ	再診患者に対し、問診から治療までを的確に行える
24				再診患者のロールプレイ	再診患者に対し、問診から治療までを的確に行える
25				再診患者のロールプレイ	再診患者に対し、問診から治療までを的確に行える
26				再診患者のロールプレイ	再診患者に対し、問診から治療までを的確に行える
27				実技試験	
28				実技試験	
29				実技試験	
30				実技試験	
31				次年度の実習に向けて復習	3年次での臨床実習に向けて準備ができている
32				次年度の実習に向けて復習	3年次での臨床実習に向けて準備ができている
評価基準			教科書		参考書
実技試験	80%				フィジカルアセスメントがみえる(メディックメディア)
出席状況	20%				

1限目(9:00～10:30)

2限目(10:40～12:10)

3限目(12:30～14:00)

科目名	はりきゅう実技応用V		学年	2年	期生
担当者			期別	後期	
単位数	2		講義・実習	実習	
時間数・授業回数	64時間・32回		専任・兼任	専任	
実務経験	鍼灸治療院勤務 13年、理療科教諭および講師 9年、専門学校非常勤講師 2年				
一般目標(GIO)					
臨床で遭遇する疾患について、鍼灸施術が適応か不適応かを判断できることを目標とする。 これまでに修得した知識の復習を行いながら、疾患や症状ごとに処方穴を選び、効果的に刺鍼できることを目指す。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1				頭痛	鍼灸の適応・不適応を判断し、頭部の目的の経穴に斜刺や横刺で鍼を打てる。
2					
3				顔面痛・顔面麻痺	顔面部に刺鍼ができる。
4					
5				眼精疲労	用途に応じた隔物灸を選び、顔面部へ施灸を行える。
6					
7				脱毛症	脱毛部へ適切な刺鍼や施灸ができる。
8					
9				排尿障害	中髎穴刺鍼ができる。
10					
11				ED	陰部神経に刺鍼することができる。
12					
13				運動麻痺	運動麻痺の原因を理解し、適応不適応の判断ができる。
14					
15				高血圧・低血圧	水銀計で血圧の測定を行うことができる。安全に洞刺ができる。
16					
17				特殊鍼法(吸角療法)	基本的な施術方法を修得し、実践できる。
18					
19				特殊鍼法(ネパール棒灸)	基本的な施術方法を修得し、実践できる。
20					
21				特殊鍼法(刺絡)	基本的な施術方法を修得し、実践できる。
22					
23				特殊鍼法(経筋治療)	基本的な施術方法を修得し、実践できる。
24					
25				復習	
26					
27				試験	
28					
29				試験	
30					
31				まとめ	
32					
評価基準			教科書		参考書
実技試験	80%	はりきゅう実技<基礎編>			
出席状況	20%	東洋医学臨床論<はり・きゅう編>			

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	美容医学		学年	2 年 期生	
担当者			期 別	後期	
単 位 数	2 単位		講義・実習	講義・実技	
時間数・授業回数	32 時間	16 回	専任・兼任	専任	
実務経験	病院勤務5年、専門学校附属治療院21年				
一般目標(GIO)					
はり師きゅう師に対する社会的な期待をふまえ、この時代に必要な資質として、皮膚の健康医学、美容鍼灸に特化した技術を修得する。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1				皮膚の作用・構造	皮膚の作用および基本構造が説明できる
2				短針による撚鍼法1	三指持鍼法を使用し、顔面部への刺鍼が実施できる
3				短針による撚鍼法2	両指持鍼法を使用し、顔面部への刺鍼が実施できる
4				短針による撚鍼法3	堤捏刺入法を使用し、顔面部への刺鍼が実施できる
5				刺鍼前の準備	顔面部の経穴を正しく把握し前柔法が実施できる
6				常用穴への刺鍼1	3種の刺鍼法を用い、正しい部位に刺鍼が実施できる
7				常用穴への刺鍼2	3種の刺鍼法を用い、正しい部位に刺鍼が実施できる
8				常用穴への刺鍼3	3種の刺鍼法を用い、正しい部位に刺鍼が実施できる
9				くすみに対するアプローチ	くすみに対して、顔面部への施術が実施できる
10				しわ・たるみに対するアプローチ	しわ・たるみに対して顔面部への施術が実施できる
11				管鍼法を用いた施術	管鍼法を用いて顔面部への施術が実施できる
12				経皮的電気刺激を用いた施術	経皮的電気刺激を用いて顔面部への施術が実施できる
13				温灸を用いた施術	温灸を用いて顔面部への施術が実施できる
14				テスト	3種の刺鍼法を用い、時間内に正しい刺鍼が実施できる
15				テスト	3種の刺鍼法を用い、時間内に正しい刺鍼が実施できる
16				電気温灸器を用いた施術	電気温灸器を用い、顔面部への正しい施術が実施できる
評価基準			教科書		参考書
実技試験	70%				健康で美しくなる美容鍼灸
筆記試験	30%				
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	社会経営学		学年	3 年 期生	
担当者			期 別	前期	
単 位 数	2 単位		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	32 時間	16 回	専任・兼任	兼任	
実務経験	【教育実績】1991～2000、08～09、09～22 小・中学校 九州医療専門学校 【臨床実績】2009～2023 専門学校附属治療院				
一般目標 (GIO)					
鍼灸院開業に際しての具体的な準備や日々の業務内容を学習する。 地域での活動や地域住民とのコミュニケーションの大切さを理解する。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1				自分の治療院を周りの人に知ってもらおう手立てを考える	情報発信の大切さと地域の人とのコミュニケーションの大切さを理解する。
2				カタログ・パンフレット・リーフレットの違いについて	それぞれの違いを理解することができる。
3				リーフレット作成 I	必ず掲載した方がよい情報を考える。
4				リーフレット作成 II	皆が興味を持つ色使いやイラストを考える。
5				リーフレット作成 III	バランスの良い構成を考える。
6				リーフレットの完成	各自が納得できるリーフレットの完成。
7				問診票について	患者の状態を知るために必要な書類であることを理解する。
8				問診票の作成 I	患者の状態について知らなければならない情報を考える。
9				問診票の作成 II	具体的に患者が書きやすくわかりやすい問診票を作成する。
10				問診票の作成 III	具体的に患者が書きやすくわかりやすい問診票を作成する。
11				問診票の完成	各自が納得できる問診票の完成。
12				患者にわかりやすい説明の大切さについて	相手の気持ちを考えながら説明することの大切さを理解する。
13				治療院の日々の業務について I	帳簿を作成し記載しなければならない項目と保管しなければならない領収書などについて理解する。
14				治療院の日々の業務について II	地域住民とのコミュニケーションの大切さを理解する。
15				確定申告について	確定申告の大切さを理解する。
16				全体のまとめと復習	
評価基準			教科書		参考書
課題提出	50%	自作プリント			
出席日数	30%				
授業態度	20%				
	%				

1限目 (9:00～10:30)

2限目 (10:40～12:10)

3限目 (12:30～14:00)

科目名	衛生学・公衆衛生学		学年	3 年 期生	
担当者			期別	通年	
単位数	2 単位		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	32時間 16回		専任・兼任	専任	
実務経験	病院勤務5年、専門学校附属治療院20年				
一般目標(GIO)					
<p>はり、きゅうの診療活動とともに、病気の予防や健康増進の知識と技術およびこれらが展開される保健福祉の法制・理論の両方を修得する。</p>					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1				衛生学・公衆衛生学の意義	衛生学・公衆衛生学の歴史および活動と意義が説明できる
2				健康	健康の概念、健康管理の概要が説明できるが説明できる
3				健康、ライフスタイルと健康	衛生行政・医療制度(保障)が説明できる 食品と栄養について説明できる
4				ライフスタイルと健康	食品と疾病について説明できる 食中毒について説明できる
5				ライフスタイルと健康、環境と健康	運動と健康について説明できる 環境と健康の関連が説明できる
6				環境と健康	物理学的・科学的環境要因と健康について説明できる
7				環境と健康	生物学的環境要因と健康について説明できる
8				環境と健康	公害について説明できる 地球規模の環境問題について説明できる
9				産業保健、精神保健	労働と健康について説明できる 精神障害の現状と分類が説明できる
10				母子保健	母体および乳幼児の健康について説明できる 児童虐待の現状が説明できる
11				成人・高齢者保健	生活習慣病の特徴と対策が説明できる 高齢者の保健福祉対策が説明できる
12				感染症とその対策	感染症の種類、感染源の種類が説明できる
13				感染症とその対策	感染経路の種類、予防接種の種類が説明できる
14				消毒法、疫学	物理的消毒法、科学的消毒法が説明できる コホート研究と症例対照研究が説明できる
15				保健統計、国際保健	人口動態統計、人口静態統計が説明できる 多国間協力と二国間協力が説明できる
16				テストの返却と解説	
評価基準			教科書		参考書
筆記試験		100%	衛生学・公衆衛生学(医歯薬出版)		国民衛生の動向(厚生労働統計協会)

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	臨床医学総論Ⅱ		学年	3年 期生	
担当者			期別	前期	
単位数	2		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	32時間・16回		専任・兼任	専任	
実務経験	病院1年、鍼灸接骨院3年、専門学校附属治療院11年、専門学校専任教員11年				
一般目標 (GIO)					
<p>診察における病態把握のための知識を習得し、東洋医学の知識だけでなく、西洋医学の知識も習得し、臨床症状や理学検査の方法を正しく理解する。</p> <p>本科目では、全身的な診察、運動機能の評価、症状別の診察法についての知識の習得を目標とする。</p>					
回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1				一般外科	熱傷・救急処置を理解し説明できる
2				麻酔科	全身麻酔・局所麻酔の概要を理解し説明できる
3				臨床検査法1	尿・糞便検査所見の変化における病態を説明できる
4				臨床検査法2	血液検査所見の変化における病態を説明できる
5				臨床検査法3	血液検査所見の変化における病態を説明できる
6				臨床検査法4	ホルモン・腫瘍マーカーの変化における病態を説明できる
7				生命徴候の診察	生命徴候の変化における病態を説明できる
8				視診	視診の概要、各部位の打診所見の変化における病態を説明できる
9				打診	打診の概要、各部位の打診所見の変化における病態を説明できる
10				聴診	聴診の概要、各部位の聴診所見の変化における病態を説明できる
11				触診	触診の概要、各部位の聴診所見の変化における病態を説明できる
12				神経系の検査1	知覚検査の概要、各感覚の変化における病態を説明できる
13				神経系の検査2	反射検査の概要、各検査所見の変化における病態を説明できる
14				神経系の検査3	脳神経検査の各所見における病態を説明できる
15				運動機能検査	運動器の理学検査と所見の変化における病態を説明できる
16				テスト返却・解説	
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	臨床医学総論 (医歯薬出版)		フィジカルアセスメントがみえる (メディックメディア)	
				病気がみえる (メディックメディア)	

1限目 (9:00～10:30)

2限目 (10:40～12:10)

3限目 (12:30～14:00)

科目名	リハビリテーション医学		学年	3 年 期生	
担当者			期 別	前期	
単 位 数	2		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	32時間・16回		専任・兼任	専任	
実務経験	病院1年、鍼灸接骨院3年、専門学校附属治療院11年、専門学校専任教員11年				
一般目標(GIO)					
リハビリテーションの基本的な知識から、障害の概念および評価、 臨床における代表的な各疾患に対するの評価とリハビリテーションについての知識の習得を目標とする。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1				リハビリテーションの概要	リハビリテーションの理念および障害の概念を説明できる
2				医学的リハビリテーションの概要	医療におけるリハビリテーションの概要を説明できる
3				障害の評価1	運動機能の評価について説明できる
4				障害の評価2	運動協調性・発達、認知機能の評価について説明できる
5				障害の評価3	言語・摂食嚥下機能・高次脳機能の評価について説明できる
6				活動・参加・合併症の評価	ADL・参加・廃用症候群の評価について説明できる
7				リハビリテーション治療1	理学療法・作業療法の概要について説明できる
8				リハビリテーション治療2	言語聴覚療法・義肢装具療法の概要について説明できる
9				リハビリテーション治療各論1	脳卒中の病態およびリハビリテーションについて説明できる
10				リハビリテーション治療各論2	脊髄損傷の病態およびリハビリテーションについて説明できる
11				リハビリテーション治療各論3	切断の病態およびリハビリテーションについて説明できる
12				リハビリテーション治療各論4	脳性麻痺の病態およびリハビリテーションについて説明できる
13				リハビリテーション治療各論5	呼吸器・心臓疾患の病態およびリハビリテーションについて説明できる
14				リハビリテーション治療各論6	運動器疾患の病態およびリハビリテーションについて説明できる
15				リハビリテーション治療各論7	神経疾患の病態およびリハビリテーションについて説明できる
16				テスト返却・解説	
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	リハビリテーション医学(医歯薬出版)		リハビリテーションビジュアルブック(学研) はり・きゅう師国家試験過去問題集(医道の日本社)	

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	運動学		学年	3 年 期生	
担当者			期 別	後期	
単 位 数	2		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	32時間・16回		専任・兼任	専任	
実務経験	病院1年、鍼灸接骨院3年、専門学校附属治療院11年、専門学校専任教員11年				
一般目標(GIO)					
<p>運動学の基礎を理解し、解剖学の運動器の復習および体表解剖をおさらいする</p> <p>本科目では、全身の骨格および関節の構造と機能、筋肉と体表解剖および運動機能の理解と知識の修得を目標とする</p>					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1				運動学総論	関節運動の基礎について説明できる
2				姿勢と重心	身体の正常な姿勢と重心について説明できる
3				歩行1	歩行周期について説明ができる
4				歩行2	歩行における各器官の働きについて説明できる
5				脊柱・体幹の運動機能	脊柱の構造と運動について説明できる
6				肩甲帯の運動機能	肩甲帯の構造と運動について説明できる
7				肩関節の運動機能	肩関節の構造と運動について説明できる
8				上腕・肘の運動機能	上腕・肘の構造と運動について説明できる
9				前腕の運動機能	前腕の構造と運動について説明できる
10				手関節・手部の運動機能	手関節・手部の構造と運動について説明できる
11				下肢帯・股関節の運動機能	下肢帯・股関節の構造と運動について説明できる
12				大腿の運動機能	大腿の構造と運動について説明できる
13				膝関節の運動機能	膝関節の構造と運動について説明できる
14				下腿・足関節の運動機能	下腿・足関節の構造と運動について説明できる
15				足部の運動機能	足部の構造と運動について説明できる
16				テスト返却・解説	
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	リハビリテーション医学(医歯薬出版)		基礎運動学(医歯薬出版)	
				はり・きゅう師国家試験過去問題集(医道の日本社)	
				運動学(医歯薬出版)	

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	関係法規		学年	3年	期生
担当者			期別	後期	
単位数	1		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	16時間・8回		専任・兼任	専任	
実務経験	臨床1年				
一般目標(GIO)					
これから変わりゆく医療に対応し、医療従事者として患者と自らを守る法令を学ぶ。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1				法とは何か	法の意義、インフォームドコンセントについて理解し説明できる
2				あはき師に関する法律	あはき師の免許について説明できる 業務に関する法律を理解する
3				あはき師に関する法律	施術所開設に関する法律を理解する 罰則について理解する
4				医療法	病院等の開設・管理について理解する 病院・診療所・助産院の広告、監督について理解する
5				医師法(歯科医師法) 医療従事者に関する法律	医師・医療従事者の業務、免許について理解する
6				薬事法規・衛生関係法規	薬事法、地域保健法、母体保護法について説明できる 精神保健法、健康増進法について説明できる
7				社会福祉関係法規	社会福祉法に関する事例をあげ、説明できる 我が国の医療保険について説明できる
8				復習	
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	関係法規(医歯薬出版)			

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	社会はりきゅう学		学年	3年	期生
担当者			期別	後期	
単位数	2単位		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	32時間 16回		専任・兼任	専任	
実務経験	病院1年、鍼灸接骨院3年、専門学校附属治療院11年、専門学校専任教員11年				
一般目標(GIO)					
<p>時代の変遷とともに、医学、医療の進歩もとどまるところがない。そこで、鍼灸を含む医学や医療の発達の歴史を学び、そのうえに立って現代の医学、医療の現状を認識する。そして制度の概要および関係法規に関する知識を修得するとともに、医療従事者の倫理や施術者として必要な能力と態度を身に付ける。</p>					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1				社会的ニーズと鍼灸師の役割 1	日本における鍼灸の歴史と現況概観を説明できる。
2				社会的ニーズと鍼灸師の役割 2	現代の鍼灸における社会的背景と展望を説明できる。
3				鍼灸師を取り巻く環境 1	現代社会における医療制度の現状について説明できる。
4				鍼灸師を取り巻く環境 2	医療保険制度および介護保険制度の概要について説明できる。
5				鍼灸師を取り巻く環境 3	社会保障制度下における鍼灸治療について説明できる。
6				鍼灸師を取り巻く環境 4	医療機関における鍼灸師の役割について説明できる。
7				地域で期待される鍼灸師の業務 1	施術所における鍼灸治療について説明できる。
8				地域で期待される鍼灸師の業務 2	在宅医療について説明できる。
9				地域で期待される鍼灸師の業務 3	介護保険制度下での鍼灸業務について説明できる。
10				地域で期待される鍼灸師の業務 4	鍼灸に併用するその他の療法について説明できる。
11				現代社会における鍼灸師の役割 1	少子高齢社会における鍼灸師の役割について説明できる。
12				現代社会における鍼灸師の役割 2	女性の健康管理における鍼灸師の役割について説明できる。
13				現代社会における鍼灸師の役割 3	ストレス社会における鍼灸師の役割について説明できる。
14				現代社会における鍼灸師の役割 4	スポーツ傷害やQOLの向上に対する鍼灸師の役割について説明できる。
15				施術所の経営展開 1	施術所開設に必要な法律知識を学び説明できる。
16				施術所の経営展開 2	経営各論について概要を説明できる。
評価基準			教科書		参考書
定期試験(筆記試験) 100%			社会あはき学(東洋療法学校協会編)		

科目名	はりきゅう実技応用VI		学年	3年	期生
担当者			期別	後期	
単位数	2単位		講義・実習	実習	
時間数・授業回数	64時間	32回	専任・兼任	専任	
実務経験	病院1年、鍼灸接骨院3年、専門学校附属治療院11年、専門学校専任教員11年				
一般目標(GIO)					
<p>正確な病能把握(問診・検査・鑑別)、鍼灸治療の適応、禁忌の判断、適切な処置あるいは治療と効果判定、客観的な記録など、鍼灸臨床をスムーズに行うための技能を養う。</p> <p>主要症候の鍼灸治療において、東洋医学的な考え方(東洋医学概論で学習する疾病観、診断論、治療論など)と現代医学的考え方(疾病についての現代医学の知識や鍼灸治療の適・不適の判断など)、双方からのアプローチができるような知識と技術を養う。</p>					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1				消化器疾患2	悪心・嘔吐・食欲不振に対する施術が実施できる
2					
3				胸部、背部の痛み	筋筋膜症、肋間神経痛に対する施術が実施できる
4					
5				消化器疾患3	便秘異常に対する施術が実施できる
6					
7				自律神経疾患1	疲労と倦怠に対する施術が実施できる
8					
9				婦人科疾患2	月経随伴症状と胎位不正に対する施術が実施できる
10					
11				自律神経疾患2	不眠に対する施術が実施できる
12					
13				消化器疾患4	食欲不振、肥満に対する施術が実施できる
14					
15				婦人科疾患3	更年期障害に対する施術が実施できる
16					
17				初診1	医療面接を行い、適切な診療録が記述できる
18					
19				初診2	医療面接を行い、適切な診療録が記述できる
20					
21				実技テスト	難経69難に基づいた選穴と施術が出来る
22					
23				再診1	医療面接、西洋医学的所見を考慮した施術を実施し、適切な診療録が記述できる
24					
25				再診2	医療面接、東洋医学的所見を考慮した施術を実施し、適切な診療録が記述できる
26					
27				再診3	医療面接、東洋・西洋医学的所見を考慮した施術を実施し、適切な診療録が記述できる
28					
29				筆記テスト	症例の内容を理解し、適切な診療録が記述できる
30					
31				テスト返却	経験した症例を検討し、説明することができる
32				カンファレンス準備	
評価基準			教科書		参考書
実技テスト	80%	東洋医学臨床論(南江堂)			
出席状況	20%	臨床医学総論(医道の日本社)			
		東洋医学概論(医道の日本社)			
		現代鍼灸臨床の実際(医歯薬出版)			

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	はりきゅう実技応用Ⅶ		学年	3年	期生
担当者			期別	後期	
単位数	2		講義・実習	実習	
時間数・授業回数	64時間・32回		専任・兼任	専任	
実務経験	専門学校付属鍼灸院 14年				
一般目標(GIO)					
鍼灸適応疾患・不適応疾患を身体学的検査法から鑑別し、病態が鍼灸適応疾患であると判断できるようにする。また、現代医学的な治療法を身につけさせ、鍼灸治療の幅を広げる能力を身につける。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1				頸部	頸部のROM、体表解剖、理学検査を理解し実践できる
2				頸部	頸部のROM、体表解剖、理学検査を理解し実践できる
3				肩関節	肩関節のROM、体表解剖、理学検査を理解し実践できる
4				肩関節	肩関節のROM、体表解剖、理学検査を理解し実践できる
5				上腕部・肘関節	上腕・肘のROM、体表解剖、理学検査を理解し実践できる
6				上腕部・肘関節	上腕・肘のROM、体表解剖、理学検査を理解し実践できる
7				前腕・手関節・手部	前腕・手関節・手部のROM、体表解剖、理学検査を理解し実践できる
8				前腕・手関節・手部	前腕・手関節・手部のROM、体表解剖、理学検査を理解し実践できる
9				腰部・股関節	腰部・股関節のROM、体表解剖、理学検査を理解し実践できる
10				腰部・股関節	腰部・股関節のROM、体表解剖、理学検査を理解し実践できる
11				大腿・膝関節	大腿・膝関節のROM、体表解剖、理学検査を理解し実践できる
12				大腿・膝関節	大腿・膝関節のROM、体表解剖、理学検査を理解し実践できる
13				下腿・足関節・足部	下腿・足関節・足部のROM、体表解剖、理学検査を理解し実践できる
14				下腿・足関節・足部	下腿・足関節・足部のROM、体表解剖、理学検査を理解し実践できる
15				胸郭出口症候群	胸郭出口症候群の検査を理解し実践できる
16				胸郭出口症候群	胸郭出口症候群の検査を理解し実践できる
17				病的反射	病的反射検査を理解し実践できる
18				病的反射	病的反射検査を理解し実践できる
19				髄膜刺激・錐体路・運動失調検査	髄膜刺激・錐体路・運動失調検査を理解し実践できる
20				髄膜刺激・錐体路・運動失調検査	髄膜刺激・錐体路・運動失調検査を理解し実践できる
21				腹部・背部の検査	腹部・背部の体表解剖、理学検査を理解し実践できる
22				腹部・背部の検査	腹部・背部の体表解剖、理学検査を理解し実践できる
23				復習	これまでの実技内容を確認し、実技試験の練習を行う
24				復習	これまでの実技内容を確認し、実技試験の練習を行う
25				復習	これまでの実技内容を確認し、実技試験の練習を行う
26				復習	これまでの実技内容を確認し、実技試験の練習を行う
27				復習	これまでの実技内容を確認し、実技試験の練習を行う
28				復習	これまでの実技内容を確認し、実技試験の練習を行う
29				実技試験	
30				実技試験	
31				試験のフィードバック	実技試験での内容をフィードバックし、確認する
32				試験のフィードバック	実技試験での内容をフィードバックし、確認する
評価基準			教科書		参考書
実技試験	80%	はりきゅう実技<基礎編> 東洋療法学校協会		問診・診察ハンドブック 医道の日本社	
出席状況	20%			現代鍼灸臨床の実際 医歯薬出版社	

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	臨床実習		学年	3年	期生
担当者			期別	通年	
単位数	4単位		講義・実習	実習	
時間数・授業回数	192時間	64回	専任・兼任	専任	
実務経験					
一般目標(GIO)					
<p>主体性をもって患者に対応し、問診から検査、病態把握、治療方針の決定、治療、効果判定、カルテ記載を一人でできるようになるとともに、症例を通して問題点を評価し検討できる能力を身に付ける。</p> <p>また、鍼灸師(医療従事者)としての人格を養う。</p> <p>(本校は模擬臨床ではない為、対象疾患は来院患者により決まる)</p>					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1				基本・準備1	真摯な態度で実習に臨むことができる
2				基本・準備1	真摯な態度で実習に臨むことができる
3				基本・準備2	服装のみだれがなく実習を行うことができる
4				基本・準備2	服装のみだれがなく実習を行うことができる
5				基本・準備3	準備・片付けを滞りなくできる
6				基本・準備3	準備・片付けを滞りなくできる
7				鍼の手技	安全に正しい刺鍼操作ができる
8				鍼の手技	安全に正しい刺鍼操作ができる
9				灸の手技	安全に正しい施灸操作ができる
10				灸の手技	安全に正しい施灸操作ができる
11				安全・衛生1	一操作一手洗いができる
12				安全・衛生1	一操作一手洗いができる
13				安全・衛生2	医療廃棄物の処理・分別がきちんとできる
14				安全・衛生2	医療廃棄物の処理・分別がきちんとできる
15				行動目標	行動目標をたて、それを実行できる
16				行動目標	行動目標をたて、それを実行できる
17				問診1	主訴に対する症状の経過をきくことができる
18				問診1	主訴に対する症状の経過をきくことができる
19				問診2	相手に受け入れられる言葉遣い・態度で問診ができる
20				問診2	相手に受け入れられる言葉遣い・態度で問診ができる
21				問診3	はっきりした声で問診ができる
22				問診3	はっきりした声で問診ができる
23				問診4	患者さんとコミュニケーションが取れる
24				問診4	患者さんとコミュニケーションが取れる
25				カルテ1	再診時、事前に内容を調べることができる
26				カルテ1	再診時、事前に内容を調べることができる
27				カルテ2	診療に必要な情報を記載できる
28				カルテ2	診療に必要な情報を記載できる
29				カルテ3	誤字脱字なく時間内に記載できる
30				カルテ3	誤字脱字なく時間内に記載できる
31				カルテ4	主訴が問題重要度順に記載できる
32				カルテ4	主訴が問題重要度順に記載できる
評価基準			教科書		参考書
実習態度		75%			
カンファレンス		25%			
		%			
		%			

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	臨床実習		学年	3年	期生
担当者			期別	通年	
単位数	4単位		講義・実習	実習	
時間数・授業回数	192時間	64回	専任・兼任	専任	
実務経験					
一般目標(GIO)					
<p>主体性をもって患者に対応し、問診から検査、病態把握、治療方針の決定、治療、効果判定、カルテ記載を一人でできるようになるとともに、症例を通して問題点を評価し検討できる能力を身に付ける。</p> <p>また、鍼灸師(医療従事者)としての人格を養う。</p> <p>(本校は模擬臨床ではない為、対象疾患は来院患者により決まる)</p>					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1				検査1	提示した検査の知識がある
2				検査1	提示した検査の知識がある
3				検査2	要求した検査が正しくできる
4				検査2	要求した検査が正しくできる
5				カルテ6	西洋医学的に所見を評価できる
6				カルテ6	西洋医学的に所見を評価できる
7				検査3	要求した東洋医学的診察法の知識がある
8				検査3	要求した東洋医学的診察法の知識がある
9				検査4	要求した東洋医学的診察法が正しくできる
10				検査4	要求した東洋医学的診察法が正しくできる
11				カルテ5	東洋医学的に所見を評価できる
12				カルテ5	東洋医学的に所見を評価できる
13				カルテ7	主訴に対する適切な考察ができる
14				カルテ7	主訴に対する適切な考察ができる
15				カルテ8	考察に応じた計画を立て、その実施が適切にできる
16				カルテ8	考察に応じた計画を立て、その実施が適切にできる
17				症例検討発表会1	症例の検討をし、発表の準備ができる
18				症例検討発表会1	症例の検討をし、発表の準備ができる
19				症例検討発表会2	症例検討の発表ができる
20				症例検討発表会2	症例検討の発表ができる
21				症例検討発表会3	症例検討の発表ができる
22				症例検討発表会3	症例検討の発表ができる
23				総合1	外来患者の主訴に応じ臨床の一連の課程が一人でできる
24				総合1	外来患者の主訴に応じ臨床の一連の課程が一人でできる
25				総合2	外来患者の主訴に応じ臨床の一連の課程が一人でできる
26				総合2	外来患者の主訴に応じ臨床の一連の課程が一人でできる
27				総合3	外来患者の主訴に応じ臨床の一連の課程が一人でできる
28				総合3	外来患者の主訴に応じ臨床の一連の課程が一人でできる
29				総合4	外来患者の主訴に応じ臨床の一連の課程が一人でできる
30				総合4	外来患者の主訴に応じ臨床の一連の課程が一人でできる
31				総合5	外来患者の主訴に応じ臨床の一連の課程が一人でできる
32				総合5	外来患者の主訴に応じ臨床の一連の課程が一人でできる
評価基準			教科書		参考書
実習態度	75%				
カンファレンス	25%				
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	スポーツ医学		学年	3 年 期生	
担当者			期別	前期	
単位数	2 単位		講義・実習	講義・実習	
時間数・授業回数	32時間 16回		専任・兼任	兼任	
実務経験	【教育経験】専門学校鍼灸師科(2016～2023年), 大学(2008～2023年) 【臨床経験】ラグビー日本代表(U20含む)アスレティックトレーナー(2007～2011, 2015, 2017年)				
一般目標(GIO)					
<p>予防医学の時代となった現在では, 鍼灸師においても各種疾患の予防・再発予防が求められるようになったといえる。</p> <p>本講義では, 各種スポーツ傷害の病態を理解するとともに, 再発予防に必要なテーピングの手法を身に付けることを目標とする。また, 身体アライメントや柔軟性の評価法や動作分析について学ぶことで, それぞれのスポーツ傷害に対して根治療法的アプローチが実践できるようになることを目指す。</p>					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1				ガイダンス, テーピングの基礎知識	テーピングの効果, 目的を把握する
2				足関節のテーピング【基本編】	足関節の基本的なテーピングを実施できる
3				足関節のテーピング【基本編】	足関節の基本的なテーピングを実施できる
4				足関節のテーピング【応用編】	足関節の応用的なテーピングを実施できる
5				足部・下腿の評価	足部・下腿の各種機能を評価できる
6				足底・下腿のテーピング	足底・下腿のテーピングを実施できる
7				股関節・膝関節の評価	股関節・膝関節の各種機能を評価できる
8				膝関節のテーピング	膝関節のテーピングを実施できる
9				大腿部・膝蓋骨のテーピング	大腿部・膝蓋骨のテーピングを実施できる
10				下肢の評価, テーピングのまとめ	下肢の評価, テーピングについて説明できる
11				体幹の評価	体幹の各種機能を評価できる
12				肩関節の評価	肩関節の各種機能を評価できる
13				肩関節のテーピング	肩関節のテーピングが実施できる
14				テーピング 総まとめ	これまで実施したテーピングについて説明できる
15				実技試験	
16				全体の振り返り	この授業の要点を説明できる
評価基準			教科書		参考書
実技試験	80%				
出席状況	20%				
	%				
	%				

1限目(9:00～10:30)

2限目(10:40～12:10)

3限目(12:30～14:00)

科目名	基礎中医学 I		学年	3 年 期生	
担当者			期別	前期	
単位数	2		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	32時間・16回		専任・兼任	専任	
実務経験	病院勤務5年、専門学校附属治療院20年				
一般目標(GIO)					
東洋医学概論及び東洋医学臨床論の知識を踏まえ、中医学の基礎を修得させる。 治療方針を立て、選穴できる力をつける。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1				頭痛	症状にあった弁証を選び、経穴を選穴できる。
2				顔面痛	症状にあった弁証を選び、経穴を選穴できる。
3				顔面麻痺	症状にあった弁証を選び、経穴を選穴できる。
4				歯痛、眼精疲労	症状にあった弁証を選び、経穴を選穴できる。
5				鼻閉鼻汁、脱毛	症状にあった弁証を選び、経穴を選穴できる。
6				めまい	症状にあった弁証を選び、経穴を選穴できる。
7				耳鳴難聴	症状にあった弁証を選び、経穴を選穴できる。
8				咳嗽、喘息	症状にあった弁証を選び、経穴を選穴できる。
9				胸痛、腹痛	症状にあった弁証を選び、経穴を選穴できる。
10				悪心と嘔吐、便秘と下痢	症状にあった弁証を選び、経穴を選穴できる。
11				月経異常	症状にあった弁証を選び、経穴を選穴できる。
12				排尿障害、ED	症状にあった弁証を選び、経穴を選穴できる。
13				肩こり	症状にあった弁証を選び、経穴を選穴できる。
14				頸肩腕痛	症状にあった弁証を選び、経穴を選穴できる。
15				肩関節痛	症状にあった弁証を選び、経穴を選穴できる。
16				前期試験の返却・解説	
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	新版 東洋学概論 東洋療法学校協会 新版 東洋医学臨床論(はりきゅう編)		東洋医学臨床論〈はりきゅう編〉東洋療法学校協会 臨床医学各論 第2版 東洋療法学校協会 病気がみえる(メディックメディア)	

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	基礎中医学Ⅱ		学年	3年 期生	
担当者			期別	後期	
単位数	2		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	32時間・16回		専任・兼任	専任	
実務経験	病院勤務5年、専門学校附属治療院20年				
一般目標(GIO)					
東洋医学概論及び東洋医学臨床論の知識を復習し、中医学の基礎を修得させる。 治療方針を立て、選穴できる力をつける。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1				上肢痛	症状にあった弁証を選び、経穴を選穴できる。
2				腰下肢痛	症状にあった弁証を選び、経穴を選穴できる。
3				腰下肢痛	症状にあった弁証を選び、経穴を選穴できる。
4				膝痛	症状にあった弁証を選び、経穴を選穴できる。
6				運動麻痺	症状にあった弁証を選び、経穴を選穴できる。
7				血圧異常、肥満、発熱	症状にあった弁証を選び、経穴を選穴できる。
8				食欲不振	症状にあった弁証を選び、経穴を選穴できる。
9				のぼせと冷え	症状にあった弁証を選び、経穴を選穴できる。
10				不眠、発疹、小児の症状	症状にあった弁証を選び、経穴を選穴できる。
11				疲労と倦怠	症状にあった弁証を選び、経穴を選穴できる。
12				スポーツ障害	症状にあった弁証を選び、経穴を選穴できる。
13				スポーツ障害	症状にあった弁証を選び、経穴を選穴できる。
14				老年医学	症状にあった弁証を選び、経穴を選穴できる。
15				総論	症状にあった弁証を選び、経穴を選穴できる。
16				後期試験の返却・解説	
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	新版 東洋学概論 東洋療法学校協会 新版 東洋医学臨床論(はりきゅう編)		東洋医学臨床論<はりきゅう編>東洋療法学校協会 臨床医学各論 第2版 東洋療法学校協会 病気がみえる(メディックメディア)	

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	西洋医学演習 I		学年	3 年 期生	
担当者			期 別	前期	
単 位 数	2		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	32時間・16回		専任・兼任	専任	
実務経験	専門学校付属鍼灸院 14年				
一般目標(GIO)					
1・2年次に学習した解剖学の基礎知識をもとに、より深く解剖学について学習し、現代医学的な鍼灸治療を安全に適確に行なえる能力を身につける。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1				運動器系(骨格)	脊椎・四肢骨・頭蓋骨・体幹骨の説明ができる。
2				運動器系(骨格)	脊椎・四肢骨・頭蓋骨・体幹骨の説明ができる。
3				運動器系(骨格)	脊椎・四肢骨・頭蓋骨・体幹骨の説明ができる。
4				運動器系(筋肉・作用・支配神経・局所血管)	上肢の筋肉と作用、支配神経、局所血管の説明ができる。
5				運動器系(筋肉・作用・支配神経・局所血管)	上肢の筋肉と作用、支配神経、局所血管の説明ができる。
6				運動器系(筋肉・作用・支配神経・局所血管)	上肢の筋肉と作用、支配神経、局所血管の説明ができる。
7				運動器系(筋肉・作用・支配神経・局所血管)	上肢の筋肉と作用、支配神経、局所血管の説明ができる。
8				運動器系(筋肉・作用・支配神経・局所血管)	下肢の筋肉と作用、支配神経、局所血管の説明ができる。
9				運動器系(筋肉・作用・支配神経・局所血管)	下肢の筋肉と作用、支配神経、局所血管の説明ができる。
10				運動器系(筋肉・作用・支配神経・局所血管)	下肢の筋肉と作用、支配神経、局所血管の説明ができる。
11				人体の構成	細胞分裂・細胞の構造を説明できる。
12				人体の構成	組織(上皮・結合・筋・神経組織)を説明できる。
13				循環器系	心臓の構造と機能を説明できる。
14				循環器系	血管の構造、各大動脈の分枝を説明できる。
15				循環器系	静脈系(奇静脈・門脈)やリンパ系の流れを説明できる。
16				前期試験の返却・解説	
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	解剖学 第2版 東洋療法学校協会		プロメテウス 解剖学アトラス 解剖学総論・運動器系 カラー人体解剖学 西村書店	

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	西洋医学演習Ⅱ		学年	3 年 期生	
担当者			期別	後期	
単位数	2		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	32時間・16回		専任・兼任	専任	
実務経験	専門学校付属鍼灸院 14年				
一般目標(GIO)					
1・2年次に学習した解剖学の基礎知識をもとに、より深く解剖学について学習し、現代医学的な鍼灸治療を安全に適確に行なえる能力を身につける。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1				呼吸器系	上気道・下気道の構造と機能を説明できる。
2				呼吸器系	肺・縦隔の構造と機能を説明できる。
3				消化器系	口腔・咽頭・食道の構造と機能を説明できる。
4				消化器系	胃・小腸・大腸の構造と機能を説明できる。
5				消化器系	肝臓・胆嚢・膵臓の構造と機能を説明できる。
6				泌尿器系	腎臓と尿路系の構造と機能を説明できる。
7				生殖器系	男性生殖器の構造と機能を説明できる。
8				生殖器系	女性生殖器の構造と機能を説明できる。
9				内分泌系	各器官から分泌されるホルモンの作用を説明できる。
10				感覚器系	視覚器の構造と機能、視覚伝導路の説明ができる。
11				感覚器系	聴覚器の構造と機能、聴覚伝導路の説明ができる。
12				神経系	大脳・間脳・脳幹・小脳の構造と機能を説明できる。
13				神経系	脳室系・脳血管・髄膜(硬膜・クモ膜・軟膜)の構造と機能を説明できる。
14				神経系	上行性・下行性伝導路の機能を説明できる。
15				神経系	脳神経の構造と機能を説明できる。
16				後期試験の返却・解説	
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	解剖学 第2版 東洋療法学校協会		プロメテウス 解剖学アトラス 解剖学総論・運動器系 カラー人体解剖学 西村書店	

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	東洋医学演習 I		学年	3 年	期生
担当者			期別	通年	
単位数	2 単位		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	32 時間	16 回	専任・兼任	専任	
実務経験	病院勤務5年、専門学校附属治療院20年				
一般目標 (GIO)					
1・2年次に学習した経絡経穴概論などの基礎知識の復習により、臨床医学へ応用できる能力を身につける。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1				経絡の概要	経絡の走行・接続部などが説明できる
				経穴の概要	骨度法・取穴に必要な体表指標などが説明できる
2				督脈	経穴名、部位、解剖を正しく記述出来る
				任脈	経穴名、部位、解剖を正しく記述出来る
3				手の太陰肺経	経穴名、部位、解剖を正しく記述出来る
				手の陽明大腸経	経穴名、部位、解剖を正しく記述出来る
4				足の陽明胃経	経穴名、部位、解剖を正しく記述出来る
				足の太陰脾経	経穴名、部位、解剖を正しく記述出来る
5				手の少陰心経	経穴名、部位、解剖を正しく記述出来る
				手の太陽小腸経	経穴名、部位、解剖を正しく記述出来る
6				足の太陽膀胱経	経穴名、部位、解剖を正しく記述出来る
				足の少陰腎経	経穴名、部位、解剖を正しく記述出来る
7				手の厥陰心包経	経穴名、部位、解剖を正しく記述出来る
				手の少陽三焦経	経穴名、部位、解剖を正しく記述出来る
8				足の少陽胆経	経穴名、部位、解剖を正しく記述出来る
				足の厥陰肝経	経穴名、部位、解剖を正しく記述出来る
9				奇経八脈	経穴名、部位、解剖を正しく記述出来る
				奇穴	奇穴名、部位、主治を正しく記述出来る
10				経絡・経穴の現代的な研究	経絡の現象、経穴の現象が説明できる
				要穴	四総穴・八会穴・八脈交会穴・交会穴・下合穴・禁鍼禁灸穴が説明できる
11				演習問題1	経穴名、部位、解剖の正誤を判断し正しい記述が出来る
				演習問題2	経穴名、部位、解剖の正誤を判断し正しい記述が出来る
12				演習問題3	経穴名、部位、解剖の正誤を判断し正しい記述が出来る
				演習問題4	経穴名、部位、解剖の正誤を判断し正しい記述が出来る
13				演習問題5	経穴名、部位、解剖の正誤を判断し正しい記述が出来る
				演習問題6	経穴名、部位、解剖の正誤を判断し正しい記述が出来る
14				演習問題7	経穴名、部位、解剖の正誤を判断し正しい記述が出来る
				演習問題8	経穴名、部位、解剖の正誤を判断し正しい記述が出来る
15				演習問題9	経穴名、部位、解剖の正誤を判断し正しい記述が出来る
				演習問題10	経穴名、部位、解剖の正誤を判断し正しい記述が出来る
16				総合問題1	国家試験に準じた内容を理解し正しい選択が出来る
				総合問題2	国家試験に準じた内容を理解し正しい選択が出来る
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	経絡経穴概論 (医道の日本社)			
	%				
	%				
	%				

1限目 (9:00~10:30)

2限目 (10:40~12:10)

3限目 (12:30~14:00)

科目名	東洋医学演習Ⅱ		学年	3 年 期生	
担当者			期別	後期	
単位数	2 単位		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	32時間 16回		専任・兼任	専任	
実務経験	病院勤務5年、専門学校附属治療院20年				
一般目標(GIO)					
<p>時代の変遷とともに、医学、医療の進歩もとどまるところがない。そこで、鍼灸を含む医学や医療の発達の歴史を学び、そのうえに立って現代の医学、医療の現状を認識する。そして制度の概要および関係法規に関する知識を修得するとともに、医療従事者の倫理や施術者として必要な能力と態度を身に付ける。</p>					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1				社会的ニーズと鍼灸師の役割 1	日本における鍼灸の歴史と現況概観を説明できる。
2				社会的ニーズと鍼灸師の役割 2	現代の鍼灸における社会的背景と展望を説明できる。
3				鍼灸師を取り巻く環境 1	現代社会における医療制度の現状について説明できる。
4				鍼灸師を取り巻く環境 2	医療保険制度および介護保険制度の概要について説明できる。
5				鍼灸師を取り巻く環境 3	社会保障制度下における鍼灸治療について説明できる。
6				鍼灸師を取り巻く環境 4	医療機関における鍼灸師の役割について説明できる。
7				地域で期待される鍼灸師の業務 1	施術所における鍼灸治療について説明できる。
8				地域で期待される鍼灸師の業務 2	在宅医療について説明できる。
9				地域で期待される鍼灸師の業務 3	介護保険制度下での鍼灸業務について説明できる。
10				地域で期待される鍼灸師の業務 4	鍼灸に併用するその他の療法について説明できる。
11				現代社会における鍼灸師の役割 1	少子高齢社会における鍼灸師の役割について説明できる。
12				現代社会における鍼灸師の役割 2	女性の健康管理における鍼灸師の役割について説明できる。
13				現代社会における鍼灸師の役割 3	ストレス社会における鍼灸師の役割について説明できる。
14				現代社会における鍼灸師の役割 4	スポーツ傷害やQOLの向上に対する鍼灸師の役割について説明できる。
15				施術所の経営展開 1	施術所開設に必要な法律知識を学び説明できる。
16				施術所の経営展開 2	経営各論について概要を説明できる。
評価基準			教科書		参考書
定期試験(筆記試験) 100%			社会あはき学(東洋療法学校協会編)		

科目名	総合医学演習 I		学年	3 年 期生	
担当者			期別	前期	
単位数	2		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	32時間・16回		専任・兼任	専任	
実務経験	特別支援学校附属治療院8年 専門学校附属治療院19年				
一般目標(GIO)					
生理学、病理学、臨床医学を総復習する目的で応用問題に取り組む。基礎科目は教科別に学習を進め、臨床医学は総合的な知識を駆使して解決へ導く。特に臨床医学の問題に取り組む際には関係する基礎医学の復習を十分に行う。最終的には鍼灸師として必要な総合診療能力を身につける。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1				生理学分野	呼吸・消化吸収・内分泌・血液型について説明できる。
2				生理学分野	排尿・加齢変化・心臓の弁と心周期・自律神経と受容体について説明できる。
3				生理学分野	活動電位・筋収縮・腸液の作用について説明できる。
4				生理学分野	運動支配・感覚器物質と構成要素・脊髄神経・腱紡錘と自原抑制について説明できる。
5				病理学分野	菌交代現象・アミロイド変性染色体異常・化学物質と身体症状について説明できる。
6				病理学分野	炎症・種々の変性・再生について説明できる。
7				病理学分野	アレルギーの分類・腫瘍の特徴について説明できる。
8				病理学分野	腫瘍の分類・免疫反応について説明できる。
9				臨床医学分野	JCS評価法・麻疹・脳梗塞・ダンピング症候群・間質性肺炎について説明できる。
10				臨床医学分野	ALS・GBS・非結核性抗酸菌症・気胸について説明できる。
11				臨床医学分野	末梢神経障害・COPD・心臓弁膜症・内分泌疾患・ドーケルバン病について説明できる。
12				臨床医学分野	心筋梗塞・胃癌・椎間板ヘルニア・脊椎疾患について説明できる。
13				臨床医学分野	膵炎・子宮癌・血友病・溶血性貧血・脳血管障害について説明できる。
14				臨床医学分野	慢性甲状腺炎・ベーチェット病・手根管症候群・多発性硬化症・先天性心疾患について説明できる。
15				臨床医学分野	挫滅症候群・熱傷・突発性難聴・うつ病・多発性骨髄腫・ベル麻痺・眼疾患について説明できる。
16				臨床医学分野	糖尿病・アジソン病・骨粗鬆症・関節リウマチ・神経症について説明できる。
評価基準			教科書		参考書
定期試験(筆記試験)100%			臨床医学各論 第2版 生理学 第3版 病理学概論 第2版 (東洋療法学校協会編)		病気がみえる (メディアックメディア) 国家試験問題集

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	総合医学演習Ⅱ		学年	3年	期生
担当者			期別	後期	
単位数	2		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	32時間 16回		専任・兼任	専任	
実務経験	特別支援学校附属治療院8年 専門学校附属治療院19年				
一般目標(GIO)					
<p>生理学、病理学、臨床医学を総復習する目的で応用問題に取り組む。基礎科目は教科別に学習を進め、臨床医学は総合的な知識を駆使して解決へ導く。特に臨床医学の問題に取り組む際には関係する基礎医学の復習を十分に行う。最終的には鍼灸師として必要な総合診療能力を身につける。</p>					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1				生理学分野	細胞内小器官・血球の種類・ヘマトクリット値・呼吸運動・腓液の消化作用の生理について説明ができる。
2				生理学分野	発汗・尿細管の再吸収・大脳新皮質・自律神経の二重支配・神経伝導速度の生理について説明できる。
3				病理学分野	循環障害・塞栓・壊死について説明できる。
4				病理学分野	急性炎症・感染症と病原微生物・化膿性炎症について説明できる。
5				臨床医学分野	3-3-9度方式・ロッキング現象・脱臼・脊椎疾患とその症候・脊髄損傷・熱傷について説明できる。
6				臨床医学分野	破傷風・一次救命処置・ショック分類・肺炎・精神科疾患と症状について説明できる。
7				臨床医学分野	肺気腫・心筋梗塞・動脈疾患・肝硬変について説明できる。
8				臨床医学分野	胆石症・種々の内分泌疾患・慢性腎不全・種々の貧血・デュシェンヌ型筋ジストロフィー症について説明できる。
9				生理学分野	心周期の駆出期・化学受容器反射・肝臓の機能・代謝(β酸化)・体液のpH調節の生理について説明できる。
10				生理学分野	妊娠とホルモン・ホルモンとその作用・中枢神経系の伝達物質・骨格筋の収縮・視覚の生理について説明できる。
11				病理学分野	プリオン・化生・滲出性炎の漿液性炎・免疫と関係する細胞について説明できる。
12				病理学分野	腫瘍の種類・特性について説明できる。
13				臨床医学分野	下垂体腺腫・胃 大腸疾患・麻疹・頭痛とその原因疾患・神経系変性疾患について説明できる。
14				臨床医学分野	過換気症候群・左心不全・食道癌・更年期障害・脂質異常症について説明できる。
15				臨床医学分野	ビタミン欠乏症・バセドウ病・原発性アルドステロン症・線維筋痛症について説明できる。
16				臨床医学分野	先天性内反足・メニエル病・腸閉塞と虫垂炎・SLEを中心とする膠原病・てんかんについて説明できる。
評価基準			教科書		参考書
定期試験(筆記試験)100%			臨床医学各論 第2版 生理学 第3版 病理学概論 第2版 (東洋療法学校協会編)		病気がみえる (メディックメディア) 国家試験問題集

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	病態生理学		学年	3 年 期生	
担当者			期 別	後期	
単位数	2 単 位		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	32時間 16回		専任・兼任	専任	
実務経験	特別支援学校附属治療院8年 専門学校附属治療院19年				
一般目標(GIO)					
<p>現代医学がいかに高度化し、検査機器が進歩し治療法が確立されても、実際に目の前の患者さんの訴えに耳を傾け、目で見て触るというプライマリな方法を抜きにしては患者さんの正しい症候はわからない。</p> <p>ここでは、数々の症候や病気を生じるメカニズム(病態生理)を正しく学生に理解させ、効果的かつ安全に医療が実践できる能力を身につける。</p>					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1				頭痛・顔面痛	病態生理・分類・症状・鑑別診断について説明できる。
2				歯痛・眼精疲労	病態生理・分類・症状・鑑別診断について説明できる。
3				鼻閉・鼻汁・めまい	病態生理・分類・症状・鑑別診断について説明できる。
4				耳鳴り・難聴	病態生理・分類・症状・鑑別診断について説明できる。
5				咳・痰・息切れ	病態生理・分類・症状・鑑別診断について説明できる。
6				腹痛・便秘・下痢	病態生理・分類・症状・鑑別診断について説明できる。
7				月経異常・不正性器出血	病態生理・分類・症状・鑑別診断について説明できる。
8				排尿障害・乏尿・多尿	病態生理・分類・症状・鑑別診断について説明できる。
9				頸肩腕痛	病態生理・分類・症状・鑑別診断について説明できる。
10				腰下肢痛	病態生理・分類・症状・鑑別診断について説明できる。
11				運動麻痺	病態生理・分類・症状・鑑別診断について説明できる。
12				肥満・るいそう	病態生理・分類・症状・鑑別診断について説明できる。
13				のぼせ・冷え	病態生理・分類・症状・鑑別診断について説明できる。
14				不眠・疲労・倦怠	病態生理・分類・症状・鑑別診断について説明できる。
15				発疹・ショック	病態生理・分類・症状・鑑別診断について説明できる。
16				口渇:悪心・嘔吐	病態生理・分類・症状・鑑別診断について説明できる。
評価基準			教科書		参考書
定期試験(筆記試験) 100%			臨床医学総論(東洋療法学校協会編)		病態生理 I 症候編 (へるす出版)

科目名	国試対策		学年	3年 期生	
担当者			期別	後期	
単位数	5単位		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	80時間	40回	専任・兼任	専任	
実務経験					
一般目標(GIO)					
はり師きゅう師の国家資格取得を目標に東洋医学と西洋医学の基礎知識を反復学習する。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1				臨床医学各論1	感染症疾患について説明できる
2				東洋医学概論1	陰陽・五行学説について説明できる
3				経絡経穴概論1	経絡・経穴の基礎について説明できる
4				東洋医学臨床論1	治療総論について説明できる
5				解剖学1	基礎について説明できる
6				生理学1	基礎について説明できる
7				臨床医学総論1	生命徴候について説明できる
8				はり理論・きゅう理論1	はりきゅうの基礎知識が理解できリスク管理について説明できる
9				臨床医学各論2	消化器疾患について説明ができる
10				東洋医学概論2	臓象学説について説明ができる
11				経絡経穴概論2	正経十二経(肺～小腸)について説明ができる
12				東洋医学臨床論2	主要症候(1)について説明ができる
13				解剖学2	骨・筋について説明ができる
14				生理学2	内臓系について説明ができる
15				臨床医学総論2	全身の診察について説明ができる
16				はり理論・きゅう理論2	鍼灸治効理論について説明ができる
評価基準			教科書		参考書
定期試験(筆記試験) 100%					

1限目(9:00～10:30)

2限目(10:40～12:10)

3限目(12:30～14:00)

科目名	国試対策		学年	3年 期生	
担当者			期別	後期	
単位数	5単位		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	80時間	40回	専任・兼任	専任	
実務経験					
一般目標(GIO)					
はり師きゅう師の国家資格取得を目標に東洋医学と西洋医学の基礎知識を反復学習する。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
17				病理学1	病因と病変について説明ができる
18				リハビリテーション学1	リハビリテーションの概要について説明ができる
19				衛生・公衆衛生学1	公衆衛生と健康について説明ができる
20				医療概論1・関係法規1	医療の歴史について説明ができる あはき師法について説明ができる
21				臨床医学各論3	呼吸器疾患について説明ができる
22				東洋医学概論3	経絡学説について説明ができる
23				経絡経穴概論3	正経十二経(膀胱～肝)について説明ができる
24				東洋医学臨床論3	主要症候(2)について説明ができる
25				解剖学3	内臓について説明ができる
26				生理学3	神経系について説明ができる
27				臨床医学総論3	局所の診察について説明ができる
28				はり理論・きゅう理論3	関連学説について説明ができる
29				病理学2	炎症と腫瘍について説明ができる
30				リハビリテーション学2	運動学について説明ができる
31				衛生・公衆衛生学2	疫学・保健統計について説明ができる
32				医療概論1・関係法規2	医療の倫理について説明ができる 医事法規・医療制度について説明ができる
評価基準				教科書	参考書
定期試験(筆記試験) 100%					

1限目(9:00～10:30)

2限目(10:40～12:10)

3限目(12:30～14:00)

